

# 第3回中部圏長期ビジョン検討会

令和3年8月19日(木) 15:00~17:00

Web会議形式

## 議事次第

### 1. 開会

### 2. 議事

#### (1) 中部圏の課題に対応した取り組み

- 1) 自動車産業の大変革を見据えたサプライヤーに求められる  
今後の取組について  
経済産業省 中部経済産業局

- 2) スタートアップ・エコシステムの形成に向けて  
名古屋市

#### (2) 第2回検討会における主なご意見とその対応

#### (3) 中部圏長期ビジョン 中間とりまとめ 素案

#### (4) その他

### 3. 閉会



### 第3回 中部圏長期ビジョン検討会 出席者名簿

日時：令和3年8月19日（木）15：00～17：00

会場：Web会議形式

（50音順、敬称略、◎：座長）

内田 俊宏 中京大学 経済学部 客員教授  
学校法人 梅村学園 常任理事  
株式会社 壺番屋 社外取締役

小川 光 東京大学大学院 公共政策学連携研究部  
公共経済政策講座 教授

◎ 奥野 信宏 公益財団法人名古屋まちづくり公社  
名古屋都市センター長

加藤 百合子 株式会社 エムスクエア・ラボ 代表取締役

朽木 英次 トヨタ自動車株式会社 総務部長

榊原 洋実 株式会社 JERA 執行役員西日本支社長

戸田 祐嗣 名古屋大学大学院 工学研究科  
土木工学専攻水工学 教授

豊田 雄二郎 株式会社 中日新聞社 論説委員

森川 高行 名古屋大学 未来社会創造機構 教授

山田 拓 株式会社 美ら地球 代表取締役

#### 【ご欠席】

末松 則子 鈴鹿市長

土方 邦裕 愛知ドビー株式会社 代表取締役社長



<第3回中部圏長期ビジョン検討会>

**NAGOYA  
EVOLVES**

スタートアップ・エコシステムの  
形成に向けて

名古屋市  
経済局イノベーション推進部  
スタートアップ支援室長  
鷺見 敏雄



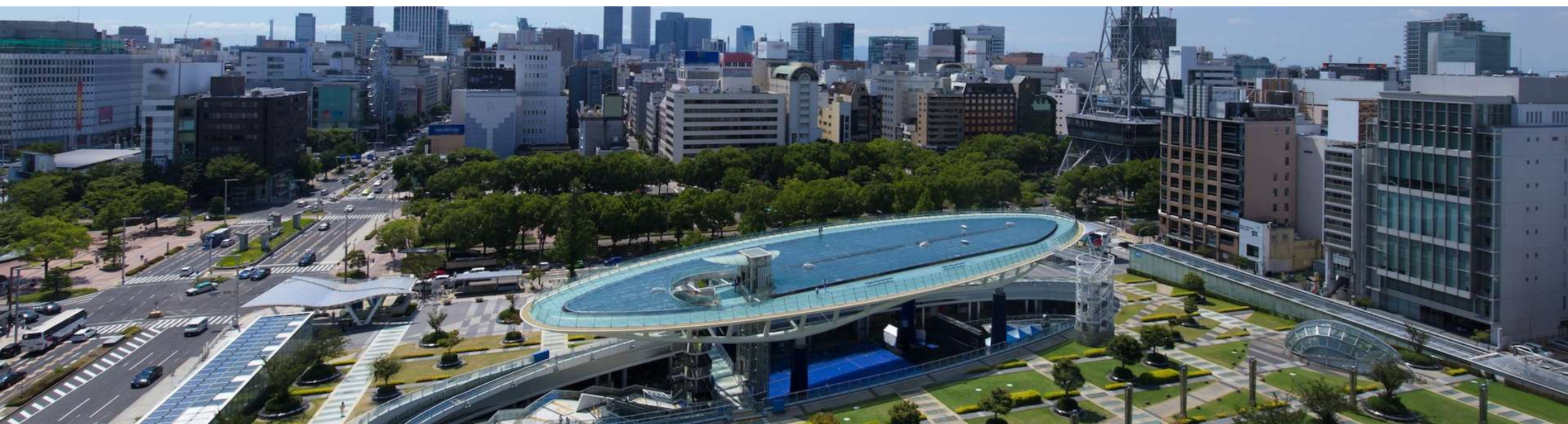
**Startup Ecosystem**

**Global hub city**

愛知・名古屋・浜松地区

スタートアップエコシステム グローバル拠点都市に選定 (令和2年7月)

**Central Japan Startup Ecosystem Consortium**



# What's Global hub city ?

## スタートアップエコシステム拠点都市一覧

### 【グローバル拠点都市】

- ・ スタートアップ・エコシステム 東京コンソーシアム  
（東京都、川崎市、横浜市、和光市、つくば市、茨城県等）
- ・ **Central Japan Startup Ecosystem Consortium**  
（愛知県、名古屋市、浜松市等）
- ・ 大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム  
（大阪市、京都市、神戸市等）
- ・ 福岡スタートアップ・コンソーシアム  
（福岡市等）

### 【推進拠点都市】

- ・ 札幌・北海道スタートアップ・エコシステム推進協議会（札幌市等）
- ・ 仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会（仙台市等）
- ・ 広島地域イノベーション戦略推進会議（広島県等）
- ・ 北九州市SDGsスタートアップエコシステムコンソーシアム（北九州市等）

# Central Japan

## Startup Ecosystem Consortium

### Central Japan Startup Ecosystem Consortium

#### Aichi-Nagoya Startup Ecosystem Consortium

代表者：一般社団法人中部経済連合会  
会長 水野明久

構成組織：157企業・団体・大学等



#### 浜松市スタートアップ戦略推進協議会

代表者：浜松市長 鈴木康友

構成組織：15企業・団体・大学等

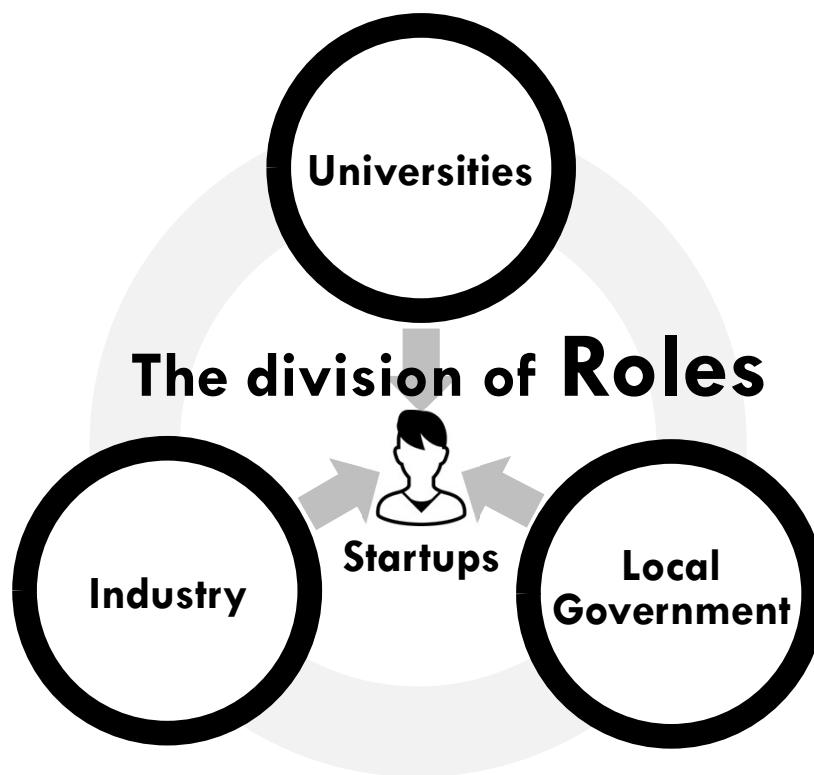


自動車等、共通の産業基盤の集積  
(地域・企業を越えた連携の実績・素地)

# Aichi-Nagoya Startup Ecosystem Consortium



次世代型人材育成・創出  
大学発スタートアップ創出



共創・協業  
イノベーション拠点強化



環境・基盤整備  
特区・規制緩和

Important

## 4 Concept

1

卓越した次世代型教育を受けた  
人材の輩出

3

海外ネットワークの拡大・深化と  
求心力の強化

2

ディープテックを活かした共創・  
オープン化による社会実装・  
社会課題解決

4

ベンチャーファイナンスの仕組みを  
構築



# NAGOYA INNOVATOR'S GARAGE

NAGOYA INNOVATOR'S GARAGE（ナゴヤイノベーターズガレージ）は、中部圏のこれからを盛り上げるイノベーションの起源として多くの機能を兼ね備え、同じ志を持った人々が集い、イノベーションを生み、世界を変える発想をもたらす場所です。





## NAGONO CAMPUS

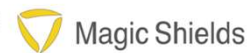
旧那古野小学校をリノベーションし生まれ変わった「なごのキャンパス」。「ひらく、まぜる、うまれる～次の100年を育てる学校～」をコンセプトに、起業家・ベンチャー企業の育成を目的とした名古屋の新しいインキュベーション施設。

20 promising startups have been selected as J-Startup CENTRAL

# J-Startup CENTRAL



J-Startup  
CENTRAL



(R3.1)



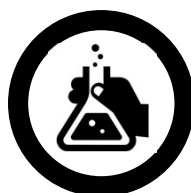
## Startup support program by Nagoya City

# 6 Category



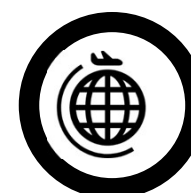
### 共創のサポート

NAGOYA Movement  
Nagoya Innovation Gateway  
INNOVATOR'S GARAGE



### 社会実証のサポート

HATCH TECHNOLOGY NAGOYA



### 海外展開のサポート

STARTUP DRIVEN



### コミュニティ形成

NAGOYA CONNÉCT



### 人材育成のサポート

小中学生起業家育成事業  
高校生スタートアップ創出促進事業  
NAGOYA BOOST 10000  
グローバルスタートアップ創出促進事業



### お金のサポート

スタートアップ企業支援補助金  
スタートアップ等販路開拓支援事業

# スタートアップ共創促進事業 NAGOYA Movement

スタートアップ企業と事業会社との確度を高めたマッチングと  
その後の事業創出を伴走型によりサポートするプログラム

## STEP 1



スタートアップとの共創に必要なノウハウ習得と事業会社のアセットを明確にするプログラム

## STEP 2



事業会社とスタートアップの相互評価によるマッチングプログラム

## STEP 3



共創プロジェクトを立ち上げ、専門家と行政のサポートを受けながら、事業を一緒に育てていくプログラム

## STEP 2 (～2020)

- ・ 事業会社×スタートアップマッチングプログラム



新日本法規出版株式会社

あしたがつてきに!



東朋テクノロジー株式会社

株式会社 日本高熱工業社



スタートアップ企業

面談数


61

社

(総応募件数は71件)

## STEP 3 (2021～)

- ・ 伴走型サポートプログラム



マッチングしたプロジェクトに対し、  
プロトタイピング、PoC等のハンズオン  
支援を実施予定

(令和3年8月6日提供開始)



シニアに**充実**を家族に**安心**を

オーダーメイドの介護保険外サービス



ミタスケア





## 先進技術社会実証支援事業

# HATCH TECHNOLOGY NAGOYA



## 01

### 課題提示型

庁内から集めた課題の解決を図る  
社会実証を実施（経費支援あり）

（令和3年度）

|         |    |           |
|---------|----|-----------|
| 行政課題    | 4件 | 700千円/件   |
| 社会課題    | 2件 | 4,000千円/件 |
| 新型コロナ関連 | 2件 | 4,000千円/件 |

令和2年度実証 **6**件

## 02

### フィールド活用型

ネットワークコミュニティ  
「Hatch Meets」において施設  
等のフィールドと実証ニーズを  
マッチング

令和2年度実証 **3**件

## 03

### 先進技術体験事業

市民が広く先進技術を体験できる  
イベントを実施

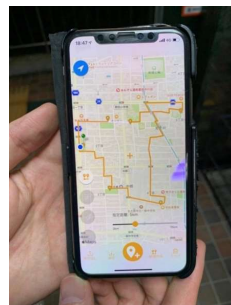


# 01 Startup tech × Social issue

## 犯罪予測による防犯ボランティア活動の最適化

防犯パトロール × 犯罪予測AI   
 名古屋市 City of NAGOYA      株式会社Singular Perturbations

犯罪予測AIにより最適な防犯パトロール経路を策定できるアプリを用いて地域住民が防犯パトロールを行い、効果を検証。



# 02 Startup tech × Demonstration field

## テラスポ鶴舞 AIカメラプロジェクト

スポーツ施設 × AIカメラ  
テラスポ鶴舞 株式会社NTT Sportict

AIカメラを活用して、地域のスポーツ大会などの様子を自動で撮影、AIによって自動的に試合の中心を追うように編集された画像を配信することで、地域スポーツの活性化や利用者の満足度を向上できるかを検証。



# 起業家教育プログラム Entrepreneurship education

(名古屋市)



小学生起業家育成事業  
elementary school student

小学起業家たまご塾

(名古屋市・中部経済連合会)



中学生起業家育成事業  
junior high school student

「スタートアップ1DAY」  
「スタートアップ3DAY」

(名古屋市・中部経済連合会)



高校生スタートアップ創出  
促進事業  
senior high school student

「ティーンズ・ミートアップ」  
「スタートアップ・ユースキャンプ」  
(2021年度新規)

(名古屋大学他)



 Tongali

EDGE-NEXT  
SCORE大学推進型





## NAGOYA BOOST 10000

起業を志す人や企業の新規事業担当者を対象としたビジネス創出プログラム。ビジネス創出のためのナレッジやスキルの獲得だけでなく、アウトプットにこだわったプログラム。



# GLOW TECH NAGOYA

Global Growing Tech Startup in Nagoya

## 1 Global Mindset Program



シリコンバレーで活動する講師陣から学ぶ起業家マインドやビジネス戦略

実施時期 2021年7月24日～10月16日

## 2 GLOW Pitch



投資家や企業との接点を生み出すための大規模なピッチイベント

実施時期 2021年11月中旬予定

## 3 Growing Support Program



資金調達や事業化に向けた、ピッチトレーニングやメンタリング

実施時期 2021年11月中旬～2月中旬予定



スタートアップの聖地、シリコンバレーで活躍する講師陣から、生きた経験や理論を学び、グローバルな事業展開に必要な起業家マインドやビジネス戦略を習得



## 講師陣



**足立崇彰**

Takaaki Adachi

ヤマトホールディングス  
株式会社 Senior  
R&D+D Executive



**井田哲郎**

Tetsuro Ida

Head of Japan  
(Country Manager) /  
日本代表 @Nauto



**加藤真平**

Shinpei Kato

東京大学大学院情報理  
工学系研究科准教授 株  
式会社ティアフォー 創業  
者兼最高技術責任者  
(CTO)



**加藤道子**

Michiko Kato

Principal at Woven  
Capital



**櫛田健児**

Kenji Kushida

Stanford University  
Asis-Pacific Research  
Center Research  
Scholar Stanford  
Silicon Valley New  
Japan Project Project  
Leader



**Shixiang  
(Shane) Gu**

シェーン・グー

Google Brain  
Research Scientist 東  
京大学 客員研究員



**鈴木陽三**

Yoza Suzuki

SV Frontier CEO



**竹内信紀**

Nobuki Takeuchi

TMI 総合法律事務所シリ  
コンバレーオフィス弁護士  
(日本国・カリフォルニア  
州・ニューヨーク州)



**吉川欣也**

Yoshinari Yoshikawa

株式会社REPUBLIC19 代表  
取締役社長

# NAGOYA CONNÉCT

米ボストン発、世界6都市・11拠点で展開されているイベントプログラム「Venture Café」と連携し、月1回なごのキャンパスにてイベントプログラムを実施。社会に対してイノベーションを生み出そうとする起業家やこれから起業を志す人、企業の新規事業担当者、VC・CVCなどの投資家、インキュベーター、アクセラレーター、行政、大学関係者、研究者など多様なイノベーターが集う。



# スタートアップ企業支援補助金

company support subsidy

| 区 分    | 内 容   |
|--------|---|
| 補助対象者  | <ul style="list-style-type: none"><li>・市内での新規創業者</li><li>・市内に本社等を有する創業後5年以内の中小企業者</li></ul> |
| 補助対象経費 | 店舗借入費、設備費、人件費、専門家に支払う経費など、創業時等に必要経費   |
| 補助率    | 補助対象経費の1 / 3以内  |
| 限度額    | 1,000千円   |



# スタートアップ等販路開拓支援事業

## Sales channel development support

| 区分     | 内容                                |  |
|--------|-----------------------------------|--|
| 補助金の種類 | スタートアップ                           | チャレンジ  |
| 対象企業   | 本市に本社機能を置く<br>創業5年以内の中小企業         | 本市に本社機能を置く<br>創業6年以内の中小企業                                  |
| 補助要件   | 最低投資額60万円<br>且つ<br>令和4年2月末までに拠点開設 | 最低投資100万円<br>且つ<br>令和4年2月末までに拠点開設<br>且つ<br>開設拠点に従業員1名以上が常駐 |
| 対象経費   | 東京23区内の拠点における賃料等6か月分              |  |
| 補助率    | 補助対象経費の2分の1                       |  |
| 限度額    | 上限1,000千円                         |  |



**NAGOYA EVOLVES HP**



**NAGOYA EVOLVES FB**



## 第2回検討会における主なご意見とその対応

## ○全体

- ・中部だからこういうところを目指そう！という部分があまり見えていないように思う。他地域がこうだけど、中部はこういう強み、こういう特徴を持っているから、そこを伸ばそう！という観点が、今の段階では見えきれていないと思う。
- ・どこの圏域でも同じということにならないために、一番大事な軸は、中部圏のビジョンは、ものづくりにおける世界の中核圏域なのだという将来像だと思う。これは、是非とも打ち出してほしい。多様な人材が世界から集まる圏域、これはどこでも求めていると思うが、とても重要なポイントだと思う。
- ・分野立てについては良いと思うが、全体のベースとなる地域デザインが必要であり、「中部圏はこんな良い地域」といった、地域のあり方のワンフレーズを準備して、それを土台として、防災やスタートアップなどの分野を立てていかないとぶれてしまうと思う。  
ベースとなるキーワードは、目指すべき将来像のエッセンスで、長期的に見てどういう状態を目指すのか、強靱な国土のデザインはこうあるべきという具体的なフレーズを書かなければならない。
- ・中部圏という非常に広域な国交省の将来ビジョンなので、1つは、中部地方に住んでいる人がうれしいこと、これはQOLの向上ということで良い。2つ目は、中部が日本のまんなかであり、そして、経済を引っ張っている、日本の中での役割、真ん中としての役割。3つ目は、世界の中の中部圏としての役割を書く。そんなまとめ方もできるのではないかな。

→第2章中部圏の特徴（強み、弱み）を追記

第3章1として、中部圏の目指すべき将来像の基本的な考え方を追記

- ・将来像のところで、なんとなく網羅感というかバランスに抜け落ちがあるような感覚を受けるので、SDGsとか、世界でも使われているような枠組みを使って整理をしていくと分かりやすいと思う。その枠組みを使いつつ、中部圏の特徴、強みのようなところが盛り込まれてくると、目指す姿がわかりやすくなると思う。
- ・SDGsということがこれからは大きな目標になってくると思うので、カーボンニュートラルという話はあるが、大きな観点でのSDGsがもう少し見えるように入れ込んでいく必要性はあると感じる。
- ・中部圏の将来像を描いて、具体的なプロジェクトを書き込むという議論をするのであれば、例えば、持続可能な観光についてUNWTO等、世界中でも言われているように、先々を見据えた世界のホットトピックスみたいなものもうまく取り入れて、それを中部圏で実現していこう、これだったら実現し得るになっていけばいいと思う。
- ・全体的に言うと、カタカナが多いというか、固いとイメージがする。ウォーカブルという言葉などうまく訳すと、ちょっとイメージも伝わってくるし、より分かりやすくなるのではないかな。

→SDGsに基づき確認（補足説明資料）

用いる語については引き続き改善に取り組む



## 1. 目指すべき将来像

- ・目指すべき将来像のところについて、QOL の観点、ネットワークの観点、いずれも様々な社会課題に対して、取り組みが明示されていて、非常にわかりやすい内容になっていると感じる。
- ・中部圏の目指すべき方向性については、良いと思う。
- ・目指すべき将来像は、非常にきれいに整理されていると思う。QOL の向上とネットワークと2つに分けたのは、率直に言って腹落ちがする。

### ○QOL

- ・「目指すべき方向性」については、QOL の向上ということで、まさにこのあたりが中部圏の強みになると思う。QOL というワードにしたのはすごく良い。
- ・QOL のところで、住むことと、訪れることがメインになっているが、この地域では、働くことも非常に重要なキーワードだと思う。とりわけ、スタートアップの観点からも、人を惹きつけるというようなもの、イノベーションも含めて、働くことの価値をきちんと入れたくて、「住んでよし、働いてよし、訪れてよし」といったような、キャッチーな言葉を1つ入れても魅力的なのかなと思う。
- ・QOL の中には、食べていけないといけないので、地域経済のことも入れるべきではないか。
- ・ワーク・ライフ・バランスの面で、中部圏は三大都市圏でも非常に高いレベルにあると思うが、ワークの質の部分においては、クリエイティブな仕事が不足している、量的な採用数が圧倒的に少ない、企業が少ないといったことがある。質・量、水準等も含め、あえてワーク・ライフ・バランスではなく、QOL という表現にしたのかなと捉えている。そのあたり、スタートアップを意識したような形で、女性、若者、シニア層、外国人等が入っているのは大変素晴らしい。
- ・今日の中経連の発表とも関連するが、イノベーションというワードがどこかにあった方が良いのではないか。この地域は産業が強くて、これまで産業の力の恩恵をすごく受けてきたと思うが、カーボンニュートラル、EV、デジタル化等で産業のあり方が変わっていくときに、30年後のこの地域の産業は大丈夫かという不安が付きまとう。中部の産業地域2.0のような、何か新しいビジネスモデルを作り上げるようなイノベーションがあると、明るい未来を考えられると思う。  
イノベーションは企業だけではなく、地域でも小さなイノベーションが起こせるので、中部地方でそういったものがたくさん出てくれば、外から見て魅力的な地域に映るのではないかと思う。
- ・生活を楽しくするという面で、自然、文化、芸術等というところに入っているかもしれないが、例えば、スタートアップが集中する渋谷のようなチャレンジできる街に近づけるような、現在の堅実性や安定性とは対極にある文化面も強調すべき。
- ・QOL の向上のところでは上げられている項目について、どれも共通しているのは多様性ということではないか。  
生活の中で、文化・芸術とかいろいろな多様な楽しみがある地域になっていることが大事であるとか、女性、高齢者等、多様な人たちがいることが大事だとか、都市だけではなく中山間地でも自由に住めるなど、多様な生活の場があるところとか、ライフスタイルも多様であるということだと思う。

- ・まったく同じものしか入っていない福袋が魅力的でないように、コロナ後のインバウンドを考えた場合でも、中部地方が、いろいろな特色を持った、小さな地域がポツポツたくさんあるということが理想的だと思っています。中部地方のそれぞれの地域の多様性が維持されて、増していくことを期待したい。
- ・目指すべき将来像のところ、QOLの向上、ネットワークに加えて、この地域の産業、土地利用などの多様性、あるいは女性が活躍する社会などを含めたダイバーシティ&インクルージョンという視点を、柱として打ち出していても良いのではないかと思う。東京圏、大阪圏と違って、中部圏の魅力積極的にアピールしていく観点では、多様性と、それらの総体として、地域が活躍・成長していくというインクルージョンという視点が大事だと思う。  
→「ものづくり」「産業」「多様性」について、基本的な考え方に記載  
「クリエイティブな仕事」「イノベーション」について、第3章2（1）に追記
- ・中部地方で気になる多様性の欠如については、圧倒的に女性の活躍です。以前調べた数字なので、少し古いかもしれないが、この地域の政治リーダーシップを取る人達が誰かという数字を見ると、県会議員、市区町村会議員の女性比率が中部4県では8%ぐらいだった。東京4都県、大阪4府県だと、大体20%ぐらいの数字になっていて、中部4県は東京の半分にも満たない数字にとどまっている。民間企業の社長に占める女性の比率も調べたことがあるが、東京や大阪は10%に届きそうな数字だが、中部は5%ぐらいで、これも半分ぐらいしかない。東京や大阪に比べて、中部地方は通勤が楽だし、子育てと住環境も良くて、女性にとって住みやすいところにも関わらず、女性が活躍できていない。例えば女性の議員や公務員の管理職比率が高ければ高いほど、女性や若者向けの政策に支出が配分されるということがある。このあたりは、中部地方は非常に改善の余地があって、それをうまく改善すれば、QOLが高まる可能性のあるポイントだと思う。  
→第2章2（2）として、追記
- ・女性や若者が共生できるまちというところはあるが、子供という観点も追加していただきたい。前回の議論の中でも、少子高齢化、人口減少する中で、子供をどのように育てていくかとか、若い女性が働くには子供の環境の整備も必要になってくるのではないかという話があったと思う。
- ・子供のことは非常に大事だと思う。これからの地域のまちづくりにおいて、高齢者に優しく、子どもが生まれ、育まれるまちという視点は入れていただきたい。  
→「子供が生まれ」について、第3章2（1）に追記
- ・学ぶ、あるいは研究する若者という中では、どちらかというとな愛知県へ流れていくということが多いが、中部圏全体として、学官連携、学術の部分についても、どこかに明記があれば、若者の環境の部分において、中部のものづくりであったり、学官連携が盛んであったりというところで、活躍できる部分にできるのではないかなと思う。  
→「クリエイティブな仕事、イノベーションが生まれる地域」において本文中に記載

- ・歴史があるということは、自分の人間形成や自信に影響していると感じる。QOL の部分で、まさに生活を楽しくする、自然・文化のところに、歴史があっても良いのではと思う。特にこの地方は、三英傑、戦国武将など、いわゆる江戸期なんかは、循環型社会ということもよく言われるし、志段味には古墳等もあるので、歴史の視点もあると良い。

→「歴史」について第3章2（1）に追記

- ・将来像に向けた目指すべき方向性のQOLの向上は、重要な観点だと思うが、防災の観点が抜けていると思う。人を惹き付けて選ばれる地域や魅力を感じることができる地域のベースとなるのは、安全で安心できる地域があって成り立つもの。その上で、女性も男性も、若者も高齢者も、お金持ちもそうでない人も、取りこぼしのない社会がベースとなって、そのような地域が人を惹きつける地域になる。

→「防災」について第3章2（1）に追記

- ・住んでよし、訪れてよし、働いてよし、という話があったが、学んでよしというものがあるといいと思う。まちづくりを議論する時に常に思うのは、名古屋に来れば頭脳があると言われるようになること。その他のポイントとして、国際的に活用される大都市圏。ビジネスが効率的に行われる圏域、高齢者に優しく子供が生まれ、育まれる町、自然が豊かで環境に優しい圏域、歴史・文化・芸術にあふれる圏域、安全・安心な圏域、こういうところに頭を置きながら、整理をしている。

- ・中部圏は自動車産業を中心に製造業が強い。設備産業であることから新規参入が難しく、代々、後を継いだ人たちは、儲かるし、良い生活ができるから、何も変える必要はないし、新しさを求めることもない。だから名古屋は、面白くもないし魅力的にはならない。

人を惹きつける魅力ある地域をつくるには、新しいことにチャレンジしていこうと思う 30~40 代の若い世代から、今の新しい考え方を発信してもらって、地域を盛り上げると良いと思う。

情報発信方法をとっても、今の子供たちは YouTube など、時代も大きく変わっている。その世代も地域づくりに取り入れないと、魅力的なまちづくりにつながらない。

- ・アメリカのブルックリンでも、若いアーティストが活躍して、古くさびれた倉庫街を都市開発して、一躍、高級住宅街になるなど、すごくおしゃれで、人が集まる場所になっている。そういうところには、若い人たちが関わっている。そういう若い人や感度の高い人たちを使いながら、まちをつくっていくと、良いまちが出来ると思う。

#### ○ネットワーク

- ・目指すべき将来像のまとめ方について、ネットワークが将来像かなど、疑問がある。
- ・ネットワークという言葉が、目指すべき将来像にも将来像の実現に向けての両方に入っている。ネットワークはハードのことばかりに偏っているのではないか。
- ・スーパー・メガリージョンと多極分散型もセットで考えるということで、これに関して若干気になったのは、目指すべき将来像のところに、ネットワーク、地域間の連携があって、具体的なプロジ

エクト案の最後にも、ネットワークとあるので、多少文言を変えても良いのかなと思う。具体的なプロジェクト案を見ると、例えば、防災というのはQOLの向上にも関連するし、ネットワークや地域間の連携からもきている。スタートアップもそうだし、カーボンニュートラルなどもそれぞれ関係性は把握できるが、ネットワークだけ直接的なので、例えば、「交流ネットワーク基盤の強化または整備」とか、少し別の表現を考えた方が良いと思う。

→第3章2(2)について、「地域間の補完・連携」として記載

- ・ネットワークについても多様性と絡めて考えることが、すごく大事な視点と思う。同じような地域をネットワークでつないでも全く意味がない。自分とは違う、自分のところを補完してくれるような多様な地域とネットワーク化することで、初めてネットワークの意味が出てくると思うので、各地域が、自分のところは何が得意で、何を打ち出していけるのかということを考えて、それをブランディングして、表に出していくことをすべきだし、行政はそれを後押ししていくべきと思う。
- ・目指すべき将来像のネットワークという言葉には、少しハード的なネットワークにイメージが直結するようになっていて、もう少し今後のデジタル化を前提とした新しい形のネットワークみたいなものをイメージし、何をつなぐのかという視点、例えば豊かさや、賑わいのネットワークといった観点で、ネットワークそのものの在り方が、今後、モビリティも変化していく中で変わっていくことも含んだような表現にしてはどうかと思う。
- ・スタートアップもカーボンニュートラルもそうだが、地域内循環型や独立経済圏という面も強化していく必要がある。

→第3章1基本的考え方に記載

- ・ネットワーク、地域間の連携のところでは、コンパクト化による賑わいやウォークアブルな将来的なまちづくりの前提として、高速道路やモビリティも含めたシームレスな交通ネットワークの提供ということも視点としては入れるべき。
- ・将来像を描く上で、移動という観点が非常に重要だと思う。都市部での渋滞はもちろんだが、高齢者の事故や、高齢化によって農村部での移動が困難化している方も増加している。こういった観点を踏まえて、色々と対策を打っていかねばいけないと思う。色々な地域や事業が連携することによって、新たな価値が創出されていくと思うので、目指すべき将来像の中でも移動という観点と、新たな価値を創出していくという観点が非常に重要だと感じる。
- ・先進モビリティをどんどん取り入れていくのだということで、地域の課題解決と産業の活性化という一石二鳥をやっていくということが入るのではないかな。

→「モビリティ」について、第3章2(2)に追記

- ・ネットワークにある「高度な都市機能」とは何か。スマートシティは誰もが幸せになるとは限らない。勝ち組だけが勝つように感じる。  
例えば、セキュリティを万全にして交通事故がゼロになり、そこに行けば子どもが安全に暮らせると言うことが、高度な都市機能であるのであれば良いし、混んでいる方の信号が青になる様なも

のが高度な都市機能かと言われるとそうではないと思う。

→第3章2(2)を整理

- ・中部地方が日本のまんなかであり、特に、陸上交通ネットワークがここに全部終結して、要になっているので、これを絶対壊してはいけないというネットワークの防災性ということが1つあると思う。
- ・首都圏で万が一のことがあり、首都機能がマヒした時に、中部地方がいの一番にバックアップとして動き出すのだというようなところ。

→「強靱なネットワーク」について、第3章2(2)に追記

## 2. 将来像の実現に向けて

- ・将来像の実現に向けて、防災、スタートアップ、観光、ネットワーク、いずれのところにも、地域づくり、まちづくりといったキーワードが入っているが、地域のデザインをどうするかということがまずあって、魅力的な地域のデザインのもと、防災、スタートアップ、あるいは観光というものがつながれていることが大事である。地域デザインがサブの項目として表れるというよりは、大項目として地域デザインがあり、その集合体として、中部圏域のデザインというものにつながっていくのではないかと思う。

→第4章1「基本的な考え方」において、目指すべき将来像との関係を整理

- ・将来像を実現するために、連携して進めていくことは大切なことで、良いと思う。
- ・具体的に地域づくりを進めていく段階では、それぞれの分野のプロや若い人の意見を取り入れることや、日本や世界ではいろんな成功事例があると思うので、見たり、体験して、反映させるといい。
- ・将来像に向けて、どういう予算をつけて、具体的に何を变えていこうとしているかまでやらないといけない。予算だけ適当に決めて一人の人がやっているようでは、絶対にいいものはできない。例えば、ビジョンの方向性に「女性、若者等が活躍・共生できる地域」とあるが、この方向性に関連のある人、女性目線であれば、女性の経営者でもいいし、若い人も代表で入れてもいい、外国人向けにと思うのであれば、外国人も入れた方が良い。この人選で全てが決まると思う。
- ・若い人達の意見をもっと理解してあげないといけない。すごく敏感にとがった感性を持っているから、それを受け入れる準備をしなきゃいけない。その上で、どうしてもいけないところはアドバイスや助言をしながら進んで行くと、すごくいいシステムができると思う。

### ○防災

- ・この地域で防災を前面に出してしっかりやっていくということが、企業を誘致する場合にも非常に重要なところだと思うので、具体的なプロジェクトのところ、防災の観点をバシッと入れているのは心強い。
- ・備えるというよりも、巨大地震はいつか必ずくるので、そこからどう復興するかという視点をいかに盛り込んでいくかだと思う。流域治水プロジェクトという施策ができたが、基本的にはあらゆることをするしかないということなので、1つの考え方としては、待つのではなく、危険な地域からいかに先に引っ越すか、危険な場所があったとしたら、そこからどう移すか、これはまちづくりという意味では非常に難しいし、熱海の土石流もそうで、危険だとある程度分かっているけど、なかなか引っ越せないとは思いますが、モデル的なケースとして、災害前から先手を打ったまちづくりという視点もあっても良いと思う。

→第4章2(1)「南海トラフ地震への備え」の本文中に記載

### ○スタートアップ

- ・名古屋イノベーターズガレージは中経連と名古屋市だと思うが、愛知県であったり、民間であった



り、国であったり、色々なところが取り組みをしているので、連携を図って進めていくことが重要。

#### ○観光

- ・観光は、アフターコロナに向けて極めて重要な集客戦略になっていくので、中部の昇龍道としてのターゲティング、ブランディングの強化や見直しまで視野に入れた方向性を今後出して欲しい。

#### ○カーボンニュートラル

- ・世界の中の貢献するビジョンとしては、1つはカーボンニュートラルは入るべき。将来像の実現に向けてのところで、カーボンニュートラルがテーマとして入っているのは、良いことだと率直に感じる。
- ・中部圏水素利用協議会において、中部圏における水素の大規模実装とサプライチェーンの構築の検討を始めている。こういったところとも連携しながら取り組みができれば良いと感じる。
- ・名古屋港カーボンニュートラルポート形成という国交省の取り組みが代表プロジェクトとして入っており、この軸にカーボンニュートラルをしっかり引っ張って行くという方針がよくわかる形になっている。付け加えると、これを実現するためには、水素、アンモニアといった、可燃物、劇物を大量に輸送し貯蔵する必要があることから、先にあげたような安全面、防災面の考慮が必要になるが、このあたりをしっかりと位置づけているのは重要な点だ。
- ・碧南と武豊は名古屋港ではなくて衣浦港になる。カーボンニュートラルポート形成を軸に脱炭素の議論を展開していくのはとても合理的であるが、衣浦港を含む近隣の港湾との関係性についても考えてほしい。

#### ○ネットワーク

- ・具体的プロジェクトとしては、先進モビリティの話が抜けている。5月に中部経済連合会と、中部先進モビリティ実装プラットフォーム(CAMIP)という活動を立ち上げた。ここを中心に、中経連、中部地整と一緒にあって、この先進モビリティを実装していこうというような動きが立ち上がった。
- ・サプライチェーンが世界中に広がっており、特に中部圏は世界のものづくりの1つの大きなノードになっているということで、世界の中に広がるサプライチェーンがきちんと機能することが重要。世界のネットワークのノードを東京、大阪だけではなく、中部もちゃんと果たすのだという意味で、名古屋港やセントレアの2本目滑走路等、世界の中のネットワークのモードをきちんと守るというような話があると思う。

→第4章2(5)「ネットワーク」の本文中に記載

以上

SDGsとの関連性

<凡例> ○：強く関連するであろうゴール  
 △：関連するであろうゴール  
 □：○または△が付かないゴール  
 ■：△は付くが○は付かないゴール

|                                       | 1 貧困をなくそう | 2 飢餓をゼロに | 3 すべての人に健康と福祉を | 4 質の高い教育をみんなに | 5 ジェンダー平等を実現しよう | 6 安全な水とトイレを世界中に | 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに | 8 働きがいも経済成長も | 9 産業と技術革新の基盤をつくろう | 10人や国の不平等をなくそう | 11 住み続けられるまちづくりを | 12 つくる責任つかう責任 | 13 気候変動に具体的な対策を | 14 海の豊かさを守ろう | 15 陸の豊かさを守ろう | 16 平和と公正をすべての人に | 17 パートナリーシップで目標を達成しよう |
|---------------------------------------|-----------|----------|----------------|---------------|-----------------|-----------------|----------------------|--------------|-------------------|----------------|------------------|---------------|-----------------|--------------|--------------|-----------------|-----------------------|
| ○ QOLの向上（住んでよし、訪れてよし）                 |           |          |                |               |                 |                 |                      |              |                   |                |                  |               |                 |              |              |                 |                       |
| ・人を惹き付け、選ばれる地域                        |           |          |                |               |                 |                 |                      | △            | ○                 |                | ○                |               |                 |              |              |                 |                       |
| ・生活を楽しくする自然、歴史・文化、芸術等の魅力を感じることができる地域  |           |          |                |               |                 |                 |                      |              |                   |                | ○                |               |                 |              |              |                 |                       |
| ・自らが、人を中心とした地域をデザインできる地域              |           |          |                |               |                 |                 |                      |              |                   |                | ○                |               |                 |              |              |                 |                       |
| ・子供が生まれ、女性、若者、高齢者、外国人等が活躍・共生できる地域     |           |          | △              | △             | ○               |                 |                      | ○            |                   | ○              |                  |               |                 |              |              |                 |                       |
| ・中山間地における自立分散・循環社会の実現                 |           |          | △              |               |                 |                 | ○                    | ○            |                   |                | ○                | ○             | △               |              |              |                 |                       |
| ・激甚化する自然災害に対応する防災の推進                  |           |          |                |               |                 |                 |                      |              | ○                 |                | ○                |               | ○               |              |              |                 |                       |
| ・クリエイティブな仕事、イノベーションがうまれる地域            |           |          |                |               |                 |                 |                      | ○            | ○                 |                |                  |               |                 |              |              |                 | ○                     |
| ○ 地域間の補完・連携                           |           |          |                |               |                 |                 |                      |              |                   |                |                  |               |                 |              |              |                 |                       |
| ・ネットワークの充実・活用で、一体となって魅力向上、隅々までの豊かさを供給 | △         | △        | △              | △             |                 |                 |                      | ○            | ○                 | ○              | ○                |               |                 |              |              |                 | △                     |
| ・時間と場所にとらわれないデジタル化を前提とした交流・対流         | △         |          |                |               | △               |                 |                      | ○            | ○                 | ○              |                  |               |                 |              |              |                 | ○                     |
| ・我が国の社会経済をけん引するスーパー・メガリージョン           |           |          |                |               |                 |                 |                      | ○            | ○                 |                |                  |               |                 |              |              |                 | ○                     |
| ・強靱なネットワークの維持・確保                      |           |          |                |               |                 |                 |                      |              | ○                 |                |                  |               |                 |              |              |                 |                       |
| ○ 防災                                  |           |          |                |               |                 |                 |                      |              |                   |                |                  |               |                 |              |              |                 |                       |
| ・南海トラフ地震への備え                          | △         |          | △              |               |                 | △               |                      |              | ○                 |                | ○                |               |                 |              |              |                 |                       |
| ・地域づくりと連携した流域治水による災害対応                |           |          |                |               |                 |                 |                      |              |                   |                | ○                |               | ○               |              |              |                 | △                     |
| ○ スタートアップ                             |           |          |                |               |                 |                 |                      |              |                   |                |                  |               |                 |              |              |                 |                       |
| ・世界から人を惹き付けるスタートアップ企業の集積・創出           |           |          |                |               |                 |                 |                      |              | ○                 | ○              |                  |               |                 |              |              |                 |                       |
| ・スタートアップ企業・人材を惹き付ける仕組みづくり             |           |          |                |               |                 |                 |                      | △            | △                 |                |                  |               |                 |              |              |                 | ○                     |
| ○ 観光                                  |           |          |                |               |                 |                 |                      |              |                   |                |                  |               |                 |              |              |                 |                       |
| ・地域資源を活かし、地域の個性を継承                    |           |          |                |               |                 |                 |                      |              | ○                 |                |                  | ○             | ○               |              |              |                 |                       |
| ・アート、食文化等を活かした観光需要の拡大                 |           |          | △              |               |                 |                 |                      |              | ○                 | △              |                  |               |                 |              |              |                 |                       |
| ○ カーボンニュートラル                          |           |          |                |               |                 |                 |                      |              |                   |                |                  |               |                 |              |              |                 |                       |
| ・すべての産業が一体となったカーボンニュートラルへの転換          |           |          |                |               |                 |                 |                      | ○            | △                 | ○              |                  |               |                 | ○            |              |                 | ○                     |
| ○ ネットワーク                              |           |          |                |               |                 |                 |                      |              |                   |                |                  |               |                 |              |              |                 |                       |
| ・先進的モビリティの活用                          |           |          | △              |               |                 |                 |                      |              | ○                 | ○              |                  | ○             |                 |              |              |                 | ○                     |
| ・リニアを活かす、「陸・海・空」高速交通ネットワークの形成         |           |          |                |               |                 |                 |                      |              |                   | ○              |                  |               |                 |              |              |                 |                       |
| ・人、モノ、情報をつなぐ高度な都市機能の強化・維持             |           |          |                |               |                 |                 |                      |              | △                 | △              | △                | △             |                 |              |              |                 | △                     |



# 持続可能な開発目標 (SDGs)について

## SDGsとは

SDGs(Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標)は、「誰一人取り残さない (leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。



## SDGsの構造

17のゴールは、①貧困や飢餓、教育など未だに解決を見ない社会面の開発アジェンダ、②エネルギーや資源の有効活用、働き方の改善、不平等の解消などすべての国が持続可能な形で経済成長を目指す経済アジェンダ、そして③地球環境や気候変動など地球規模で取り組むべき環境アジェンダといった世界が直面する課題を網羅的に示しています。SDGsは、これら社会、経済、環境の3側面から捉えることのできる17のゴールを、統合的に解決しながら持続可能なよりよい未来を築くことを目標としています。

## 人間の安全保障との関連性

我が国は脆弱な立場にある一人一人に焦点を当てる「人間の安全保障」の考え方を国際社会で長年主導してきました。「誰一人取り残さない」というSDGsの理念は、こうした考え方も一致するものです。

## SDGs達成に向けて

2019年9月に開催された「SDGサミット」で、グテーレス国連事務総長は、「取組は進展したが、達成状況には偏りや遅れがあり、あるべき姿からはほど遠く、今、取組を拡大・加速しなければならない。2030年までをSDGs達成に向けた『行動の10年』とする必要がある」とSDGsの進捗に危機感を表明しました。

2020年、新型コロナウイルス感染症が瞬間に地球規模で拡大したことから明らかなように、グローバル化が進んだ現代においては、国境を越えて影響を及ぼす課題に、より一層、国際社会が団結して取り組む必要があります。

SDGs達成に向けた道のりは決して明るいものではありません。だからこそ、「行動の10年」に突入した今、私たち一人ひとりにできることをしっかりと考え、一歩踏み出す姿勢が求められています。

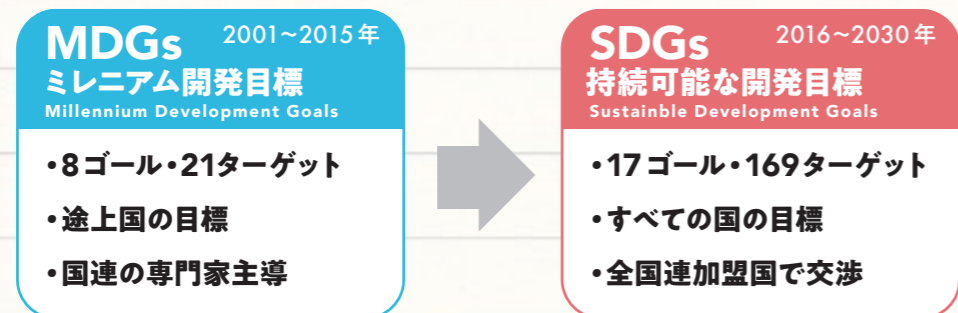
## SDGsの特徴

前身のMDGs(Millennium Development Goals : ミレニアム開発目標)は主として開発途上国向けの目標でしたが、SDGsは、先進国も含め、全ての国が取り組むべき普遍的(ユニバーサル)な目標となっています。(図1)

しかしながら、これらの目標は、各国政府による取組だけでは達成が困難です。企業や地方自治体、アカデミアや市民社会、そして一人ひとりに至るまで、すべてのひとの行動が求められている点がSDGsの大きな特徴です。

まさにSDGs達成のカギは、一人ひとりの行動に委ねられているのです。

(図1)



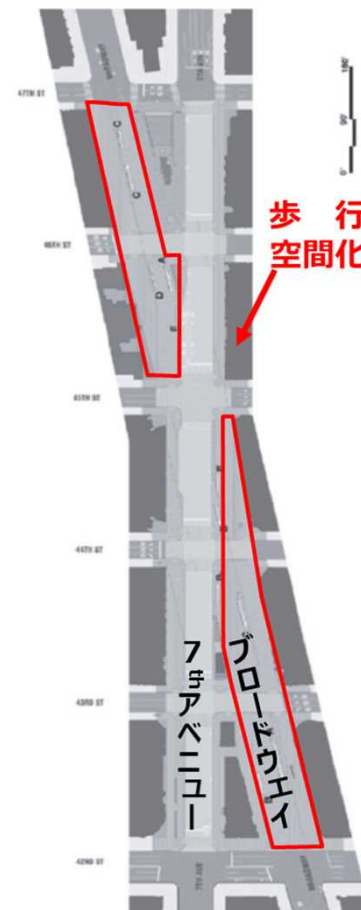
## 持続可能な開発目標 (SDGs) の詳細

|                             |   |                        |  |
|-----------------------------|---|------------------------|--|
| <b>1</b> 貧困をなくそう            | <b>目標1 [貧困]</b><br>あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる  | <b>2</b> 飢餓をゼロに        | <b>目標2 [飢餓]</b><br>飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する  |
| <b>3</b> すべての人に健康と福祉を       | <b>目標3 [保健]</b><br>あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する   | <b>4</b> 質の高い教育をみんなに   | <b>目標4 [教育]</b><br>すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する   |
| <b>5</b> ジェンダー平等を実現しよう      | <b>目標5 [ジェンダー]</b><br>ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う                                      | <b>6</b> 安全な水とトイレを世界中に | <b>目標6 [水・衛生]</b><br>すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する  |
| <b>7</b> エネルギーをみんなにそしてクリーンに | <b>目標7 [エネルギー]</b><br>すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する                              | <b>8</b> 働きがいも経済成長も    | <b>目標8 [経済成長と雇用]</b><br>包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する          |
| <b>9</b> 産業と技術革新の基盤をつくろう    | <b>目標9 [インフラ、産業化、イノベーション]</b><br>強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る            | <b>10</b> 人や国の不平等をなくそう | <b>目標10 [不平等]</b><br>国内及び各国家間の不平等を是正する   |
| <b>11</b> 住み続けられるまちづくりを     | <b>目標11 [持続可能な都市]</b><br>包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する                                | <b>12</b> つくる責任 つかう責任  | <b>目標12 [持続可能な消費と生産]</b><br>持続可能な消費生産形態を確保する   |
| <b>13</b> 気候変動に具体的な対策を      | <b>目標13 [気候変動]</b><br>気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる  | <b>14</b> 海の豊かさを守ろう    | <b>目標14 [海洋資源]</b><br>持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する  |
| <b>15</b> 陸の豊かさも守ろう         | <b>目標15 [陸上資源]</b><br>陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する | <b>16</b> 平和と公正をすべての人に | <b>目標16 [平和]</b><br>持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する |
| <b>17</b> パートナリシップで目標を達成しよう | <b>目標17 [実施手段]</b><br>持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる                               |                        |  |



- 半年間にわたる社会実験を経て、2010年以降、ブロードウェイは恒久的に広場化された。(タイムズ・スクエアの歩行者数は11%増加。また、74%の市民がタイムズ・スクエアは劇的に改善されたと回答している。)
- ニューヨーク市内全体でも、2008年以降、65カ所で街路空間等の広場化が計画され、2016年時点で44カ所が供用。2008年から2017年までの10年間で、計1億3430万ドルの広場転換費用を行政が負担。(街路空間等の広場化後、3年目の売上増加率が47%を記録した地域も。)

[ 整備前 (2009年) ]



[ 整備後 (2015年) ]



(出典) 中島直人・関谷進吾「ニューヨーク市タイムズ・スクエアの広場化プロセス」(2016) などに基づき国土交通省都市局作成



## 姫路駅北駅前広場

整備前



整備後



(出典) 姫路市提供資料

**[まちなか公共空間の修復・改変]** 車道中心だった駅前空間をトランジットモール化（公共交通のみ通行可）、歩行者空間・芝生化し、民間の様々なイベントの展開やインバウンド増と相まって多様な人材が集う空間へ転換

**[民間投資の共鳴]** 駅周辺におけるホテル、マンション建設が活発化し、駅周辺の商業地地価は25%上昇（H31：全国7位）、商業床面積も増加

## 豊島区南池袋公園

整備前



(上空からの写真)

整備後



(上空からの写真)

(出典) 豊島区提供資料

**[まちなか公共空間の修復・改変]** 平成28年4月に、利用率の低い公園を再整備し、芝生やmovable chair、サンクンガーデン、民間カフェ等の設置により、若者から子連家族まで多様な人々が多様な使い方ができる空間へ転換

**[民間投資の共鳴]** 公園周辺に若者向けテナントが出店し、さらに周辺では民間都市開発事業が旺盛に実施

# 中部圏長期ビジョン

## 中間とりまとめ（素案）

・数値・図表・写真等はイメージを掲載  
(今後、最新版等に差し替え予定)

令和 3 年●月

中部圏長期ビジョン検討会



# 中部圏長期ビジョン 中間とりまとめ 素案

## <目次>

はじめに

### 第1章 新たな社会経済情勢の変化

1. 人口減少・少子高齢化に伴う労働力の減少
2. デジタル技術革新の進展
3. カーボンニュートラルへの対応
4. 新興国の成長により激化する国際競争
5. ライフスタイルの多様性の進展
6. 自然災害の激甚化・頻発化
7. 南海トラフ地震の発生の懸念
8. インフラの老朽化

### 第2章 中部圏の特徴

#### 1. 強み

日本のまんなか  
充実したネットワークインフラ  
ものづくりに秀でた産業特性  
リアルな多様な空間  
豊かな自然環境  
歴史・文化

#### 2. 弱み

災害リスク  
男性中心の社会

### 第3章 中部圏の目指すべき将来像

1. 基本的な考え方
2. 目指すべき将来像
  - (1) QOLの向上（住んでよし、訪れてよし）
  - (2) 地域間の補完・連携

### 第4章 将来像の実現に向けて

1. 基本的な考え方
2. 重点連携プロジェクト
  - (1) 防災
  - (2) スタートアップ
  - (3) 観光

(4) カーボンニュートラル

(5) ネットワーク

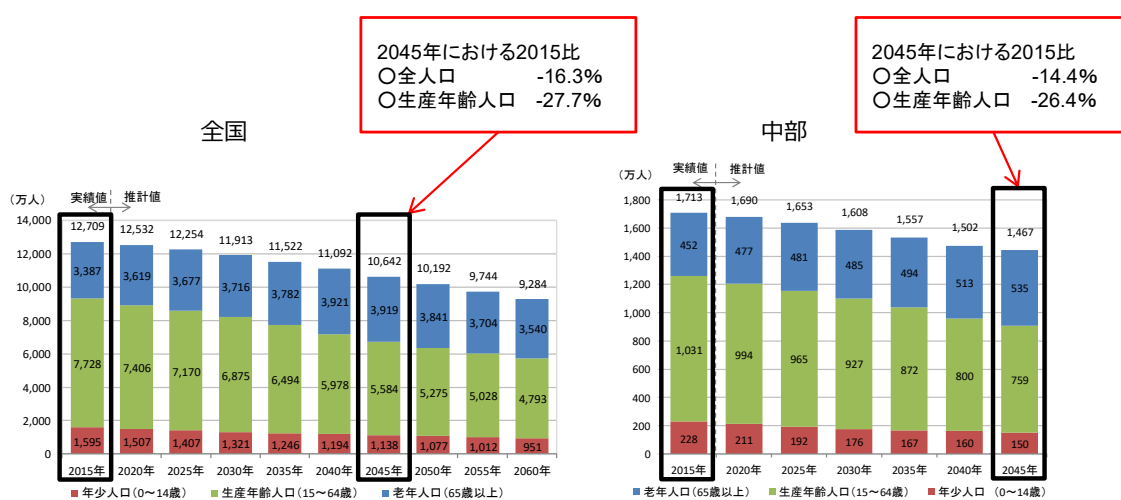
おわりに

## 第1章 新たな社会経済情勢の変化

### 1. 人口減少・少子高齢化に伴う労働力の減少

- ・全国的に老年人口が増加し、生産年齢人口が減少している。
- ・中部圏においても生産年齢人口は減少し、2015年の約1031万人が2045年には約759万人になり、30年間で約272万人減少すると推計されている。

図表 年齢区分別将来推計人口



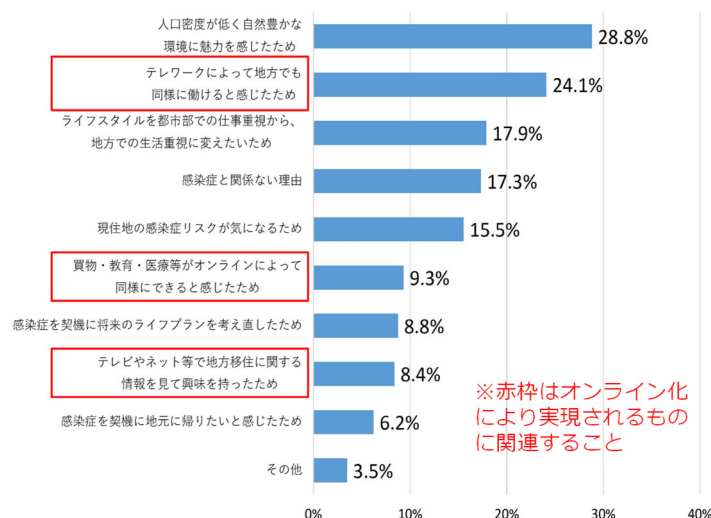
出典：国立社会保障人口問題研究所

「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」より作成

### 2. デジタル技術革新の進展

- ・新型コロナウイルス感染症の流行により、デジタル技術が革新的に向上し、仕事、教育、住まいにも影響を及ぼしている。
- ・職場ではデジタル化が進み、テレワークが浸透してきている。
- ・大学・大学院でもオンラインによる授業が進められている。
- ・「テレワーク」ならびに「買い物」・「教育」・「医療」等のオンライン化が地方移住への関心の理由となっている。

図表 地方移住への関心理由(東京圏在住で地方移住に関心がある人)



※「特になし」と回答した人の割合は 20.0%

※東京圏は東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県

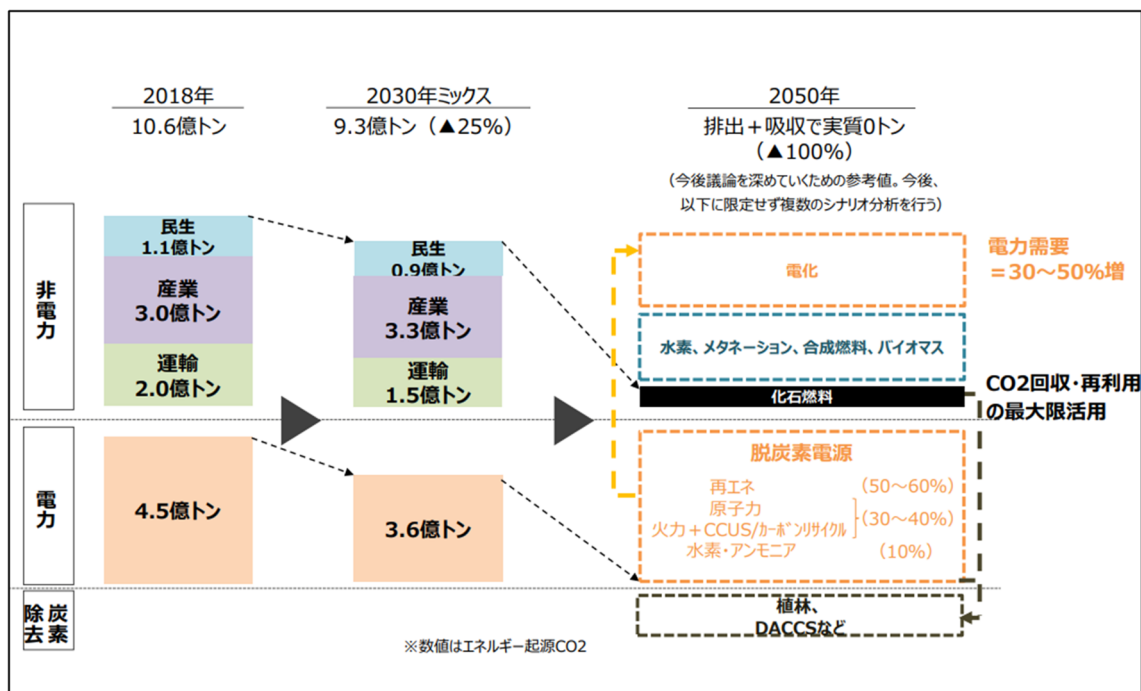
出典：内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」(2020年12月)

### 3. カーボンニュートラルへの対応

- ・2020年10月、第203回臨時国会の所信表明演説において、菅義偉内閣総理大臣は「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言した。
- ・「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」では、温暖化への対応を、経済成長の制約やコストとする時代は終わり、国際的にも、成長の機会と捉える時代に突入したとしている。
- ・電力部門の脱炭素化は大前提とされ、電力部門以外は、電化が中心となり、熱需要には、水素などの脱炭素燃料、化石燃料からのCO<sub>2</sub>の回収・再利用も活用していくこととなるとされている。
- ・ものづくり産業が盛んな中部圏においては、製造業の電力消費量の上位10位に愛知県を筆頭に3県が該当していることから、持続可能な事業環境・社会形成に向け、当圏域で先導的にカーボンニュートラルに取り組む意義は大きい。

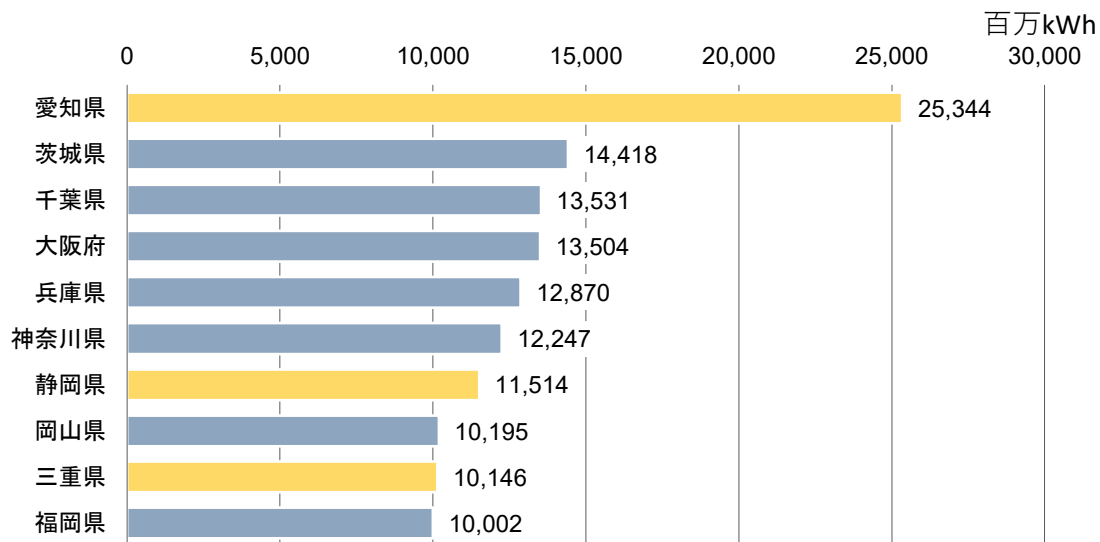


図表 カーボンニュートラルの実現



出典：経済産業省「2050年カーボンニュートラルに向けたグリーンイノベーションの方向性」  
 (2020年11月)

図表 都道府県別の製造業における電力消費量上位10位



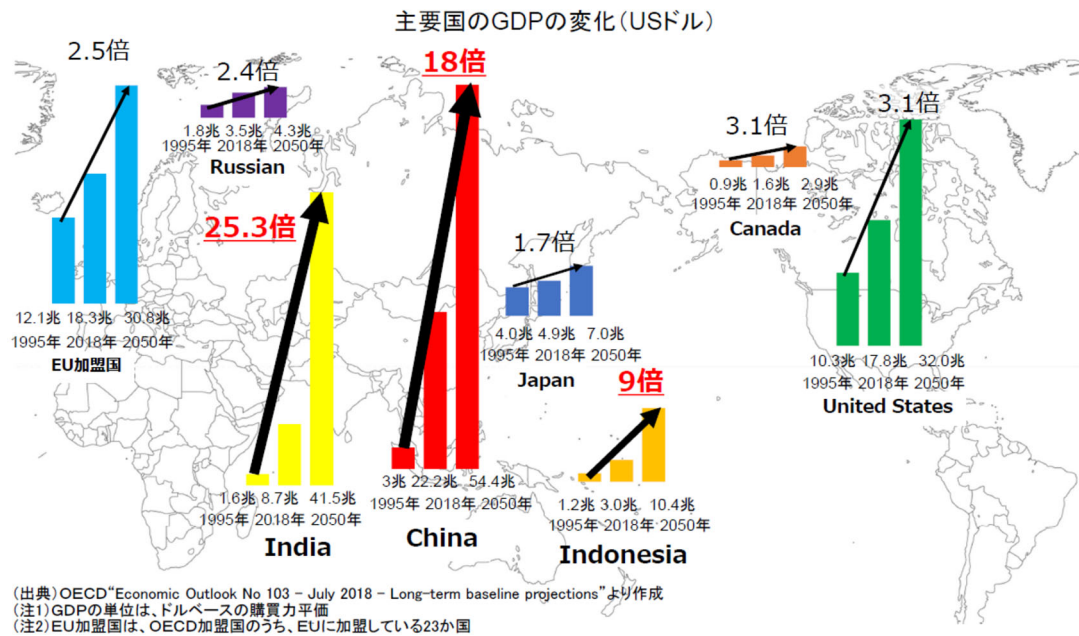
※製造業：食品飲料製造業、繊維工業、木製品・家具他工業、パルプ・紙・紙加工品製造、印刷・同関連業、化学工業（含石油石炭製品）、プラスチック・ゴム・皮革製品製造業、窯業・土石製品製造業、鉄鋼・非鉄・金属製品製造業、機械製造業、他製造業

出典：経済産業省「都道府県別エネルギー消費統計（2018年度値）」

#### 4. 新興国の成長により激化する国際競争

- ・世界各国の GDP 額は、これまでの世界経済を牽引して来た先進国を新興国が上回る事が予測されている。
- ・1995 年を基準とし、2050 年までの GDP の変化の見通しをみると、日本が 1.7 倍、中国は 18 倍、インドは 25 倍となっており、アジアの著しい成長に対し、日本の相対的地位の低下が懸念される。

図表 主要国の GDP の変化(USドル)



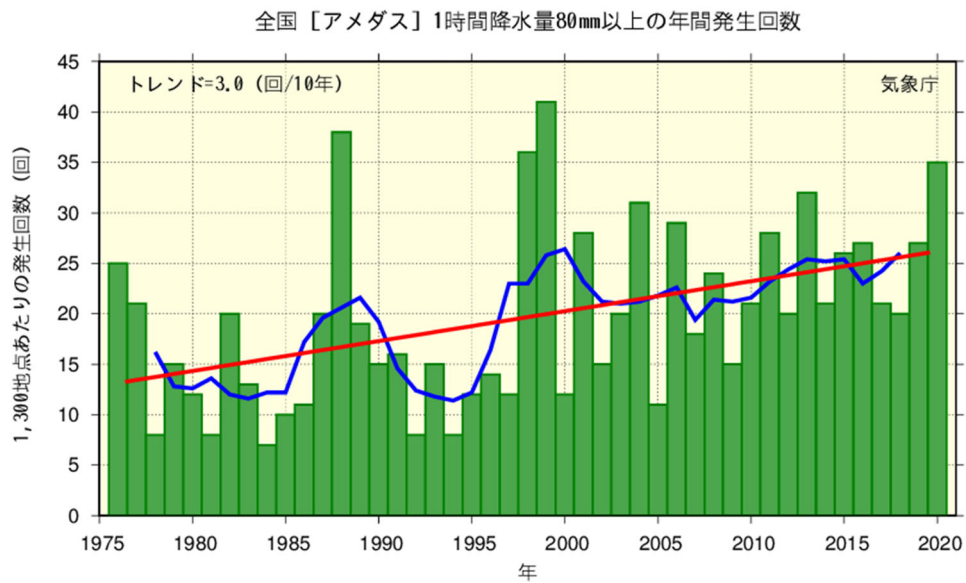
出典：国土交通省「国土の長期展望専門委員会（第8回）配付資料 参考資料1」



## 6. 自然災害の激甚化・頻発化

- ・近年は毎年のように全国各地で自然災害は頻発。
- ・最近10年間（2011～2020年）の集中豪雨の年間発生回数（約26回）は、統計期間の最初の10年間（1976～1985年）の平均年間発生回数（約14回）と比べて約1.9倍に増加している。土砂災害の発生回数も近年増加傾向にあり、自然災害が激甚化・頻発化している。

図表 集中豪雨の年間観測回数の推移



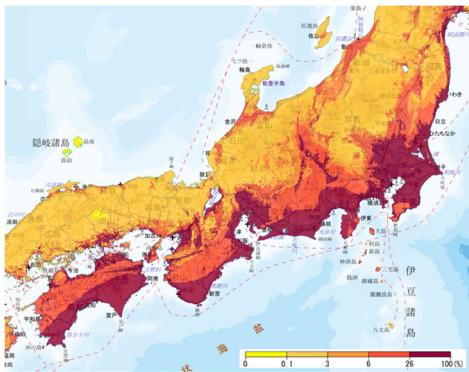
出典：中部地方整備局河川部「第1回流域治水の推進に向けた中部関係省庁実務者会議」資料2



## 7. 南海トラフ地震の発生の懸念

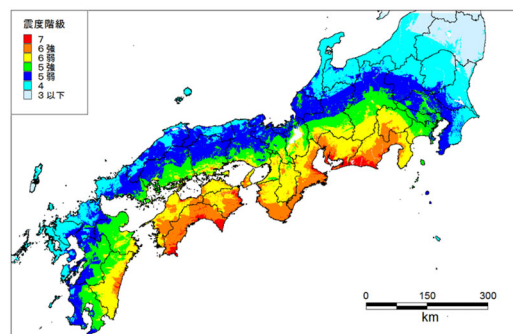
- ・政府の地震調査研究推進本部によれば、南海トラフで今後 30 年以内に M7～8 クラスの地震が発生する確率は 70～80%とされている。
- ・2013 年（平成 25 年）の内閣府「南海トラフ巨大地震対策について（最終報告）」によると、静岡県から宮崎県にかけての一部では震度 7 となる可能性があるほか、それに隣接する周辺の広い地域では震度 6 強から 6 弱の強い揺れになると想定されている。

図表 今後 30 年で震度 6 弱以上の揺れに見舞われる確率



出典：国立研究開発法人 防災科学技術研究所「J-SHIS 地震ハザードステーション 2020 年版 全ての地震 平均ケース」

図表 震度の最大の分布

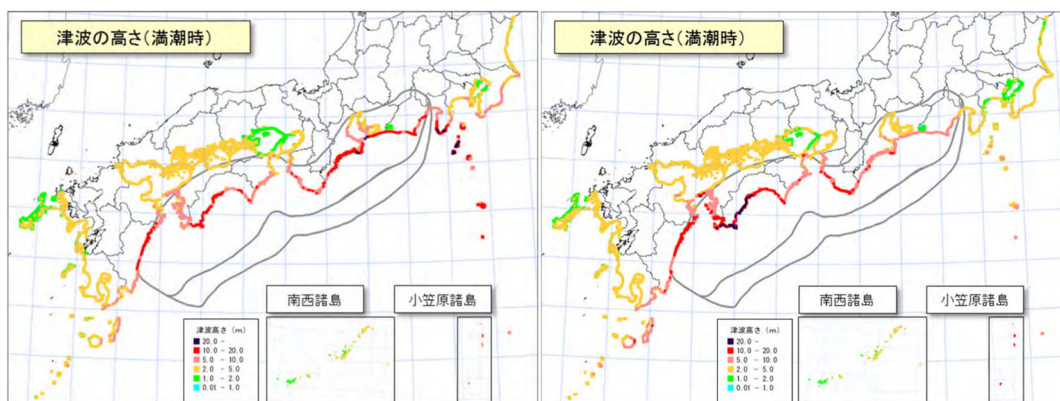


(注) 震度推計に用いた 5 ケースの最大値(一つの地震でこのような震度分布が生じるものではない。)

出典：内閣府「南海トラフ巨大地震対策について（最終報告）」

- ・ 関東地方から九州地方にかけての太平洋沿岸の広い地域に 10m を超える大津波の襲来が想定されている。

図表 津波高分布(一部抜粋)



左：東海地方が大きく被災するケース（「駿河湾～紀伊半島沖」に「大すべり域+超大すべり域」を設定

右：九州地方が大きく被災するケース（「四国沖～九州沖」に「大すべり域+超大すべり域」を設定。

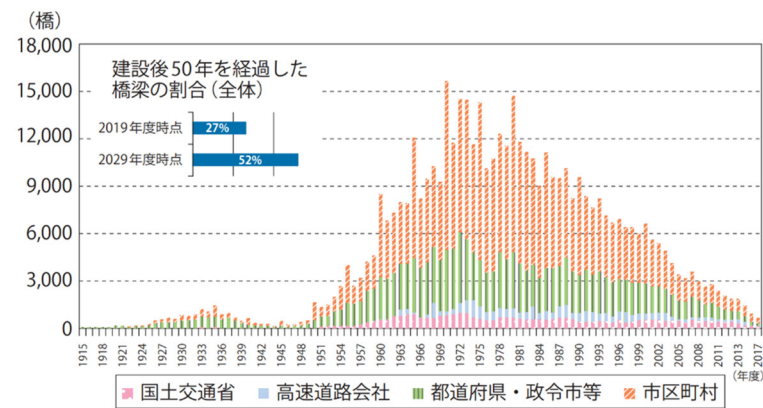
出典：内閣府「南海トラフ巨大地震対策について（最終報告）」

- ・ 全壊及び焼失棟数が最大 238 万棟、死者最大 32 万人と想定されている。

## 8. インフラの老朽化

- ・我が国のインフラは、その多くが高度経済成長期以降に整備されており、今後、建設から50年以上経過する施設の割合は加速度的に増加する見込み。
- ・全国約72万の道路橋梁については、建設後50年を経過する施設の割合は、2019年（令和元年）3月時点では27%であったが、2029年3月には52%へと急増することが予想されている。
- ・建設後50年以上経過する施設の割合は、約5千ある港湾岸壁については、2018年3月時点では約17%であるが2033年3月時点では約58%になると予想されている。

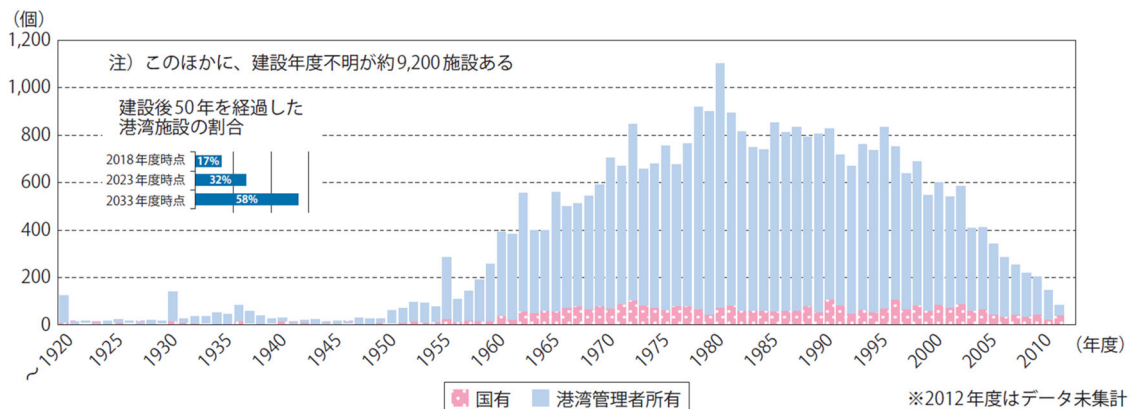
図表 建設年度別橋梁数



資料) 国土交通省

出典：国土交通省「国土交通白書 2020」

図表 建設年度別港湾施設数



出典：国土交通省「国土交通白書 2020」

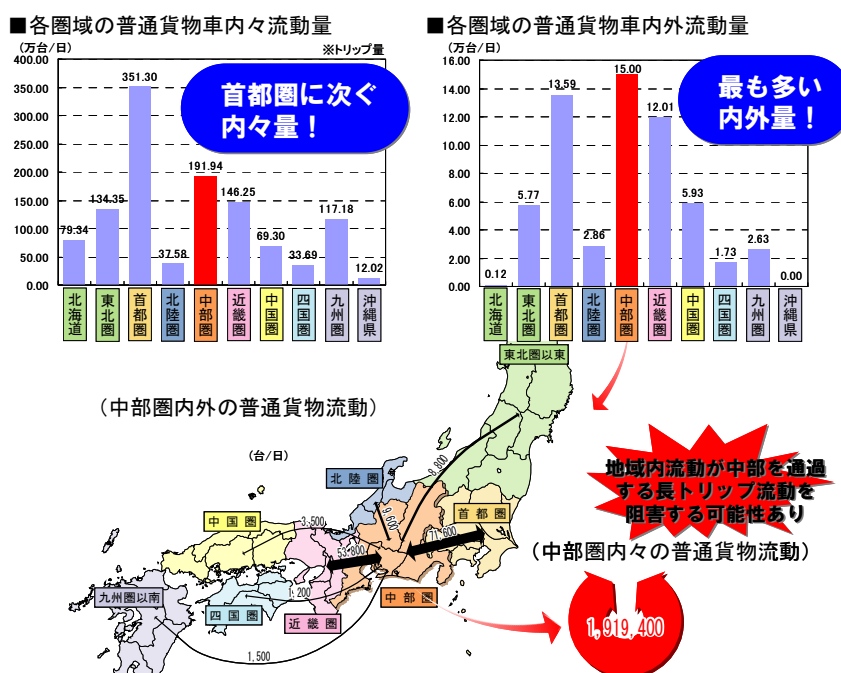
## 第2章 中部圏の特徴

### 1. 強み

#### (1) 日本のまんなか

- ・中部圏は日本のまんなか位置し、三大都市圏の中でも中間に位置している。
- ・日本を9つの圏域に分けて普通貨物車の圏域内外の流動（他圏域間との流動+内々流動）を見ると、中部は15万台/日となっており、国内で最も多い物流量となっている。

図表 物流の中心を担う中部

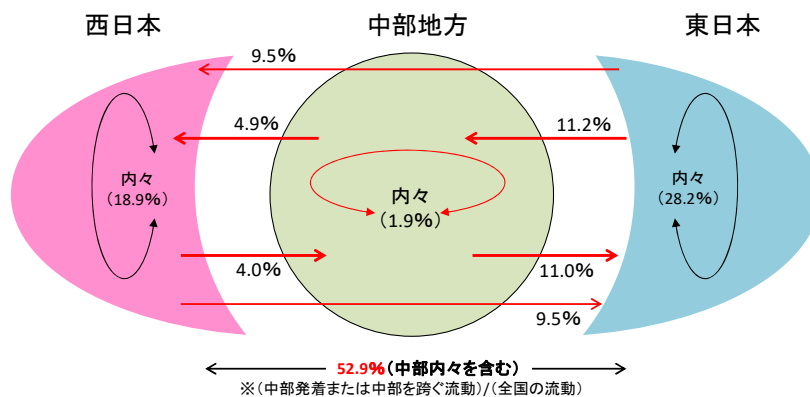


出典：平成17年度道路交通センサスOD集計結果より作成

- ・同様に旅客純流動をみると国内の52.9%が中部地方に関わりのある流動となっている。



図表 中部を介する旅客純流動(鉄道交通)



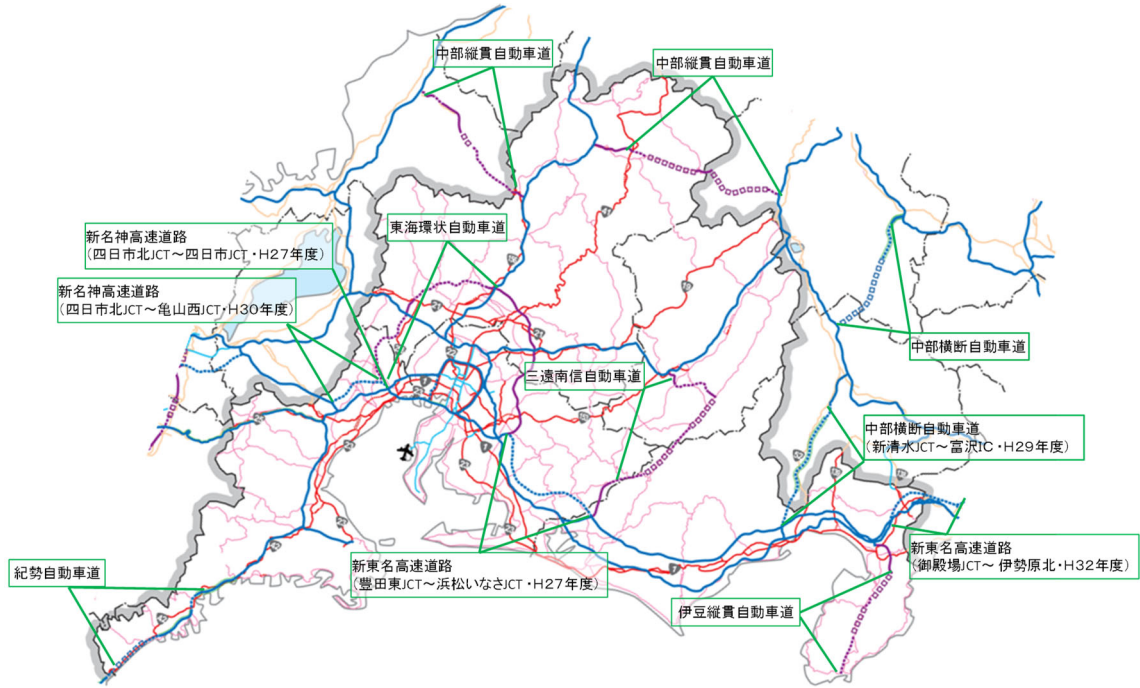
鉄道による国内の旅客純流動のうち、その半分以上(51.0%)が中部地方を介した東西方向の旅客流動となっており、中部地方内々の旅客流動と合わせると、52.9%が中部地方を流動している。

出典：国土交通省「第6回(2015年)全国幹線旅客純流動調査」より作成

## (2) 充実したネットワークインフラ

- ・中部圏は、新東名・新名神、東名・名神、中央自動車道等の高速道路や東海道新幹線などの東西軸と、東海北陸自動車道、三遠南信自動車道、中部横断自動車道などの南北軸が交わっている。
- ・中部圏と北陸圏を東西に結ぶ中部縦貫自動車道整備も進められている。
- ・令和3年、名古屋環状2号線が全線開通、東海環状自動車道も令和8年度の全線開通を目ざし整備が進められている。
- ・これらの道路ネットワークは、中部国際空港や名古屋港、四日市港、清水港等、海外とのゲートウェイの機能も高めている。
- ・今後、リニア中央新幹線の東京・名古屋間の開業により、東京と名古屋が40分で結ばれ、さらに大阪までの全線開業で三大都市圏が約1時間で結ばれることとなる。

図表 中部地方の道路ネットワーク



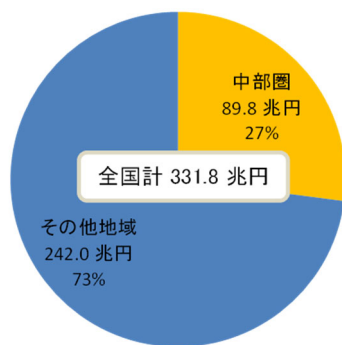
※括弧内の年度は開通予定年度

出典：中部地方整備局作成（平成26年4月現在）

(3) ものづくりに秀でた産業特性

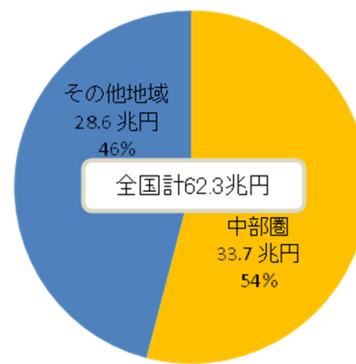
- ・中部圏は、世界を代表する自動車産業や高い技術力を誇る地場産業など「ものづくり」の生産拠点。
- ・特に、中部圏の製造品出荷額は 89.8 兆円で我が国全体の 27%を占めており、自動車関連産業に関していえば、33.7 兆円で我が国全体の 54%を占める等、国内競争を牽引している。

図表 中部圏の製造品出荷額等



出典：経済産業省「平成 29 年工業統計」より作成

図表 自動車関連の製造品出荷額等のシェア



※岐阜県の自動車車体・附随車製造業は秘匿値のため中部圏に含めていない。

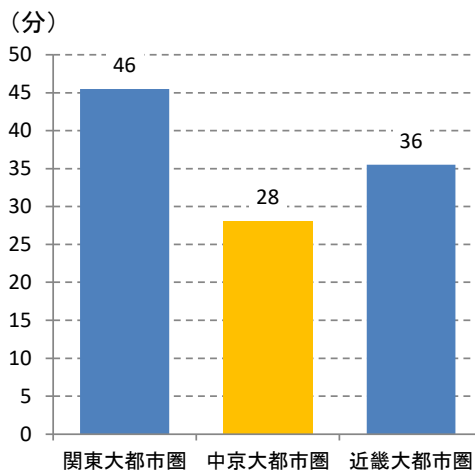
出典：経済産業省「平成 29 年工業統計」より作成

- ・産業界と大学、行政等の密接な連携により、名古屋大学に縁のあるノーベル賞受賞者を 6 名輩出。

#### (4) リアルな多様な空間

- ・中京大都市圏は、関東大都市圏や近畿大都市圏に比べて平均通勤時間が2割から4割程度短いなど、職住が比較的近接し、鉄道の極端な混雑もなく快適に通勤・通学を行うことができる。

図表 大都市圏の通勤時間



※【関東大都市圏】さいたま市，千葉市，東京都特別区部，横浜市，川崎市，相模原市及びその周辺市町村、【中京大都市圏】名古屋市及びその周辺市町村、【近畿大都市圏】京都市，大阪市，堺市，神戸市及びその周辺市町村

※家計を主に支える者の通勤時間の中央値（分）

出典：総務省「平成30年住宅・土地統計調査」より作成

- ・一人あたりの居住空間が広く、都市と自然が近接しているなど他の大都市圏に比較して生活環境にゆとりがある。

#### (5) 豊かな自然環境

- ・中部圏は3,000m超の中部山地が北側にそびえ、太平洋・日本海を分ける分水嶺を源に、木曾川、熊野川、天竜川、千曲川等我が国有数の200km級の大河川が伊勢湾や熊野灘、遠州灘等太平洋、日本海に流れており、雄大な風土・風景や景観を形成するとともに、豊富な植生や生態系を生み、肥沃な土壌と恵みを与えている。



## (6) 歴史・文化

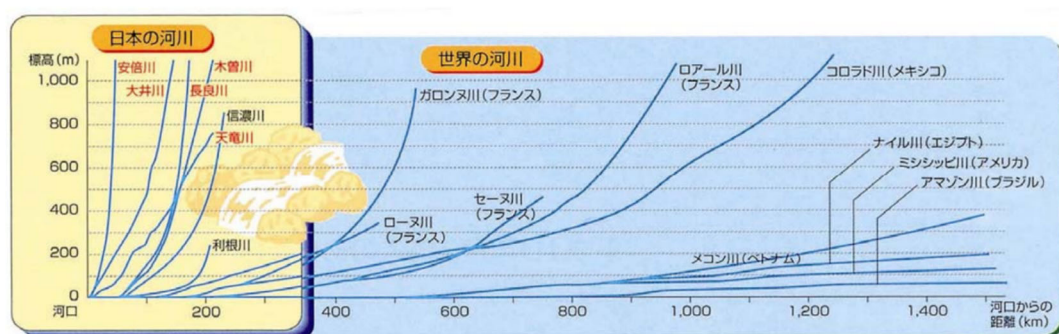
- ・中部圏は、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康などの人物を輩出。
- ・五街道の東海道、中山道、また、美濃路や伊勢路等が整備され、各街道筋には宿場町が栄えた。
- ・伊勢や熊野、富士山をはじめ白川郷や高山などには伝統文化がいきづき、文楽や地歌舞伎等の伝統芸能、山車・祭りをはじめとする地域文化、海女や忍者、鵜飼、食等地域固有の歴史文化が現在に至るまで継承されている。

## 2. 弱み

### (1) 災害リスク

- ・南海トラフ地震をはじめとした地震の発生が危惧されており、沿岸部を中心に甚大な地震被害、津波被害が危惧されている。(被害が最大となるケースの被害想定は約 220 兆円)
- ・濃尾平野は我が国最大のゼロメートル地帯であり、急流な木曽川、長良川、揖斐川の本木曾三川が流れ込む地形を形成し、高い洪水リスクも抱えている。
- ・山地部は、我が国最大級の断層系である中央構造線や糸魚川・静岡構造線等にも起因し脆弱で、山地を流れる急流河川により浸食が繰り返され、土砂供給による流域管理上の課題が生じている。

図表 急流河川を有する中部

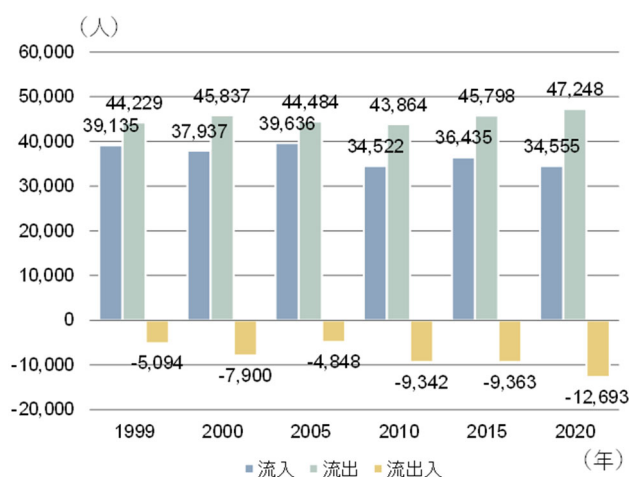


出典：国土交通省中部地方整備局「H29 年度中部の河川関係事業」

(2) 男性中心の社会

- ・東京一極集中が進む中で、名古屋圏から東京圏への転出者数は、東京圏から名古屋圏へ転入者数を男性、女性ともに大きく上回っており、1999年から2020年にかけてその転出入差は約2.5倍に拡大、うち、女性は男性と同程度転出している。また、年齢層では、20代の転出が突出している。

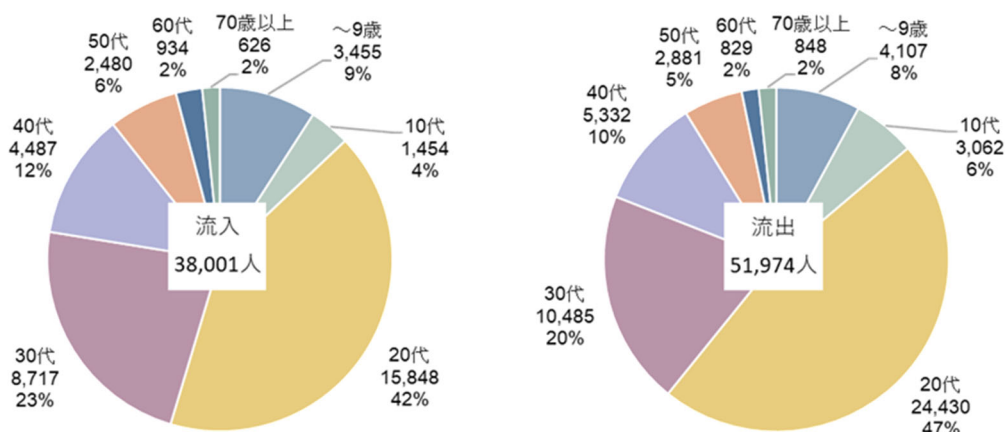
図表 名古屋圏における東京圏との転出入の状況(合計)



※1999年からの時系列図は外国人を含まず、  
年齢別・男女別は外国人を含むため、合計が一致しない。

出典：総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」より作成

図表 名古屋圏における東京圏との転出入の状況(2020年、年代別シェア)

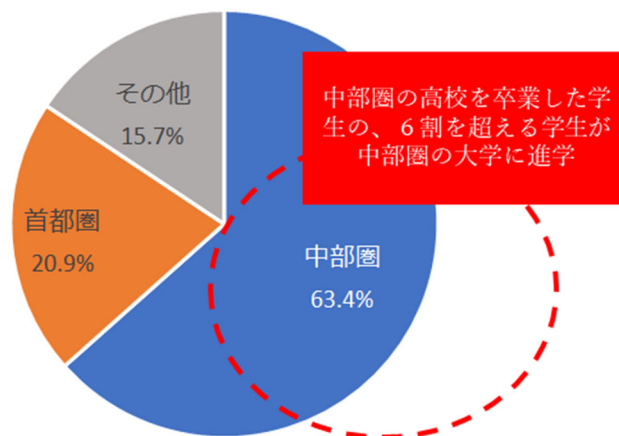


※名古屋圏：岐阜・愛知・三重、東京圏：埼玉・千葉・東京・神奈川

出典：総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」より作成

- ・また、文部科学省「学校基本調査（令和2年度）」（出身高校の所在地）によると、中部圏の高校を卒業した学生の大学進学先地域としては、6割を超える学生が中部圏の大学に進学していた。女性に限定すると、7割近くの学生が中部圏の大学に進学していた。

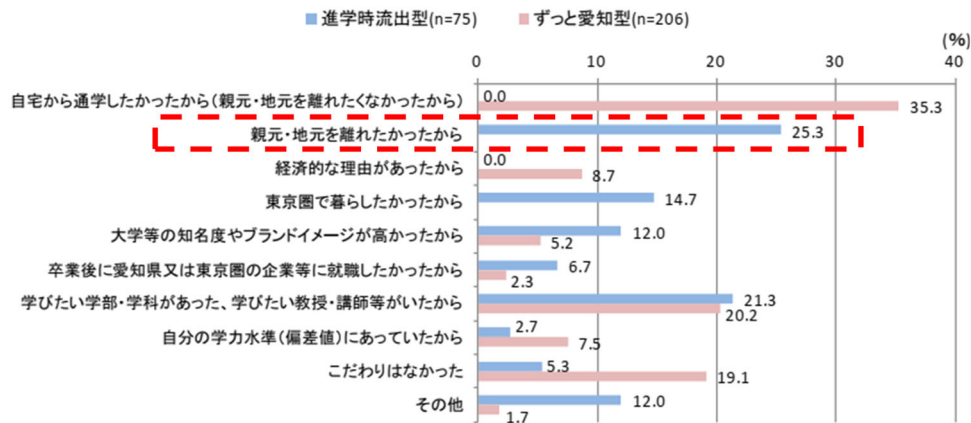
図表 中部圏の高校を卒業した学生(計 83,533 人)の 大学進学先地域別割合



出典：文部科学省「学校基本調査（令和2年度）」 出身高校の所在地 より作成

- また、愛知県が若年女性を対象に実施した調査によると、愛知県から東京圏の大学に進学した理由として、「親元・地元を離れたかったから」という理由が最も多い。逆に、就職時に東京圏を選択した理由としては、「やりたい仕事があったから」が最も多かった。

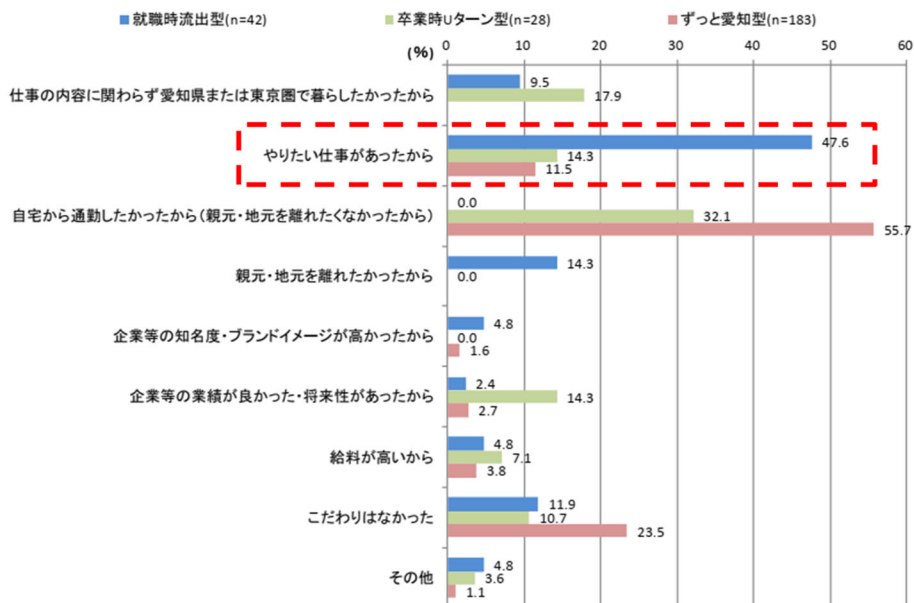
図表 東京圏または愛知県の大学等に進学した理由(単一回答)



※「ずっと愛知型」には、「親元・地元を離れたかったから」、「東京圏で暮らしたかったから」の選択肢がない。

出典：愛知県「若年女性の東京圏転出入に関する意識調査結果」

図表 東京圏または愛知県の企業等に就職した理由(単一回答)



※「ずっと愛知型」には、「仕事の内容に関わらず愛知県または東京圏で暮らしたかったから」、「親元・地元を離れたかったから」の選択肢がない。

出典：愛知県「若年女性の東京圏転出入に関する意識調査結果」



### 第3章 中部圏の目指すべき将来像

#### 1. 基本的な考え方

- ◇豊かな自然、固有の歴史・文化、ものづくりをはじめとした様々な産業を有する中部圏の各地域が多様な個性を磨き、世界から人材が集まり、すべての人が活躍できるQOLの高い「住んでよし、訪れてよし」の魅力的な地域をつくる。
  - ◇交通・情報通信ネットワークを充実・活用し、中部圏内の多様な地域が補完・連携し、中部圏域が一体となって成長し、首都圏・近畿圏とともに我が国の社会・経済をけん引し、世界の拠点としての機能を果たす。
- 
- ・中部圏は、東京に比べて自然環境が豊かで土地が安く、豊かで暮らしやすい。都市だけではなく、郊外の魅力、海辺や山岳地域もある。いわゆる日本の土着的文化、伝統が残っている。また、世界の拠点となるものづくりだけでなく、地域の特性を活かした様々な一次産業も盛んである。
  - ・このような多様性のある中部圏の特徴を活かし、画一的な地域をつくるのではなく、それぞれが自立した魅力ある地域をつくるのが重要である。
  - ・特に、生活する上で、文化・芸術など多様な楽しみがある地域になっているか、女性、若者、高齢者、外国人等、多様な人たちが暮らしやすいか、都市だけでなく中山間地でも自由に住めるような多様な生活の場があるかなど、QOLを向上させ、世界から有能な人材を惹き付ける「住んでよし、訪れてよし」の地域をつくるのが重要である。
  - ・このような個性ある多様な地域をネットワーク化することにより、相互に補完、連携し、中部圏全体としての魅力を高める。
  - ・高速道路、港湾など基幹的なハード面のネットワークや情報通信ネットワークの充実だけでなく、デジタル化を前提としたモビリティの変化への対応や、豊かさや賑わいといった観点から自転車道のようなライトインフラの充実も図っていく。
  - ・リニア開業も見据え、首都圏、近畿圏とも連携し、三大都市圏が一体となったスーパー・メガリージョンとして、我が国の社会経済をけん引し、世界の中枢拠点を目指す。

#### 2. 目指すべき将来像

##### (1) QOLの向上（住んでよし、訪れてよし）

##### 【人を惹き付け、選ばれる地域】

- ・世界の様々な都市と競争しなければならない中で、有能な人材を惹き付けて、かつ保持できる都市となるのが重要である。
- ・暮らし方、働き方、居住地が自由になると、選ばれる地域になるのが重要である。特に、ものづくりに付加価値を与え、様々なことを企画し、売れるものを創出していく、いわゆるクリエイティブな人材を呼び込むような地域にしていく。

### 【生活を楽しむ自然、歴史・文化、芸術等の魅力を感じることができる地域】

- ・ 製造業が強く、男性中心の業態が多い中で、利便性や効率性を追い求めてきた結果、“ダサい”と感じられてしまい、生活の楽しさ、しなやかさといった部分が不足している。生活の楽しさを増やさない限り、10年後、30年後に、世界から取り残されかねない。
- ・ 今、世界をリードするような優秀な人材が集まっている都市はQOLが高い。米国テキサスをはじめ、オーストリアのリンツは20万人ほどの都市であるが、アートや文化が充実しており、世界のクリエイティブな人材が集まる。工学や医学も大事だが、純文学、社会科学、芸術といったところが、クリエイターや優秀な研究者を集めてくるという意味で非常に大事である。
- ・ 仕事は人生の1つのパートであって、特に所得の高い人や、新しいことをやりたい人は、自然、環境、歴史、文化、芸術、余暇、医療、通勤といった働きやすさを求め、それを提供できる都市が生き残っていくことができる。
- ・ 多様で新しいことをやりたい人たちは、QOLが高いところ、文化や芸術があって人生楽しく過ごせるところに魅力を感じる。QOLの高みを目指す事により、日本及び世界における立ち位置を確保する事が出来る。

### 【自らが、人を中心とした地域をデザインできる地域】

- ・ 人中心ではなく、ルール優先の社会であり、制約が多い。人が豊かに過ごせる視点で、発言しやすい環境で意見が反映されるような、参加型で人を中心とした地域をデザインできる方向に変える。

### 【子供が生まれ、女性、若者、高齢者、外国人等が活躍・共生できる地域】

- ・ 中部圏では女性活躍の進展が遅く、中部のものづくり企業でも女性活躍の視点での議論が遅れていると感じる。
- ・ 少子高齢化、人口減少する中で、若い女性が働くためには、子供をどのように育てていくかといった子供の環境整備も必要になってくる。女性や若者が共生できることとあわせ、子供という観点も重要である。
- ・ 高齢化が進む中、地域住民とともに高齢者に優しいまちづくりを進めていく。賑わいがあり、誰もが歩いて暮らす事ができるウォークラブルなまちを創出していく。
- ・ 外国人については、これまでの労働者としての関わりだけでなく、生活者として共生社会を実現していく。

### 【中山間地における自立分散・循環社会の実現】

- ・中山間地において、自立分散・循環型社会の実現に向けて様々な先進的な取り組みを行うことで、世界中から優秀な人材が集う地域を形成する。
- ・海外の視点を取り入れ、地域資源の活用あるいは新たなライフスタイルのプラットフォームを創出する。

#### 【激甚化する自然災害に対応する防災の推進】

- ・人を惹き付けて選ばれる地域や魅力を感じることができる地域は、安全で安心できる防災があって成り立つ。
- ・南海トラフ地震の防災・減災、毎年のように起こる自然災害の激甚化への対応、老朽化する施設のメンテナンス等への対策に取り組む。

#### 【クリエイティブな仕事、イノベーションがうまれる地域】

- ・カーボンニュートラル、EV、デジタル化等、将来的な産業構造を考え、新しいビジネスモデルを作り上げるようなイノベーションが必要である。
- ・イノベーションは企業だけでなく、地域でも起こすことができる。産学官連携が盛んであるという中部圏の特性を活かし、若者が活躍できる魅力的な地域を創出する。

### (2) 地域間の補完・連携

#### 【ネットワークの充実・活用で、一体となって魅力向上、隅々までの豊かさを供給】

- ・多様な個性を持つ地域が、ネットワークを活用し、相互に補完・連携することで、中部圏が一体となって成長する。
- ・少子高齢化、人口減少が、特に地方都市で顕著になっていく中で、ネットワークを活用し広域連携を進めることが重要である。
- ・デジタル化は、人、モノ、情報の移動に影響を与えるとともに、都市に住みたくない、郊外に住みたい、海辺に住みたいといったライフスタイルの多様性に応えることが可能となった。
- ・新型コロナウイルスの影響で新しい生活様式となり、オンラインなど新技術の導入が加速し、人を呼びこまなくともそれぞれの地方が都市機能を維持できるようになった。1時間半程度で往来できる地域間で補完・連携することにより、それぞれの地域が生き残っていくことができる。
- ・今後、国家間、自治体間、企業、家計で格差が拡大し、二極化していくことが想定される中で、デジタル化の動きから取り残されてくる地域等が出てこないようにすることが重要である。
- ・地方都市が相互に補完・連携できるよう、ハード・ソフトのネットワークを充実・強化し、中部圏の隅々までの豊かさを供給していく。

#### 【時間と場所にとらわれないデジタル化を前提とした交流・対流】

- ・時間と場所にとらわれないデジタル化により、地域内のスタートアップを興していくために、スタートアップの盛んな他地域との交流・対流をより簡単におこなうといったことが可能となっている。
- ・デジタルによる交流が盛んになる時代においては、リアルな交流の価値がますます高まる。そのため、人流・物流をつなげていく交通ネットワークインフラの役割も一段と高まる。

#### 【我が国の社会経済をけん引するスーパー・メガリージョン】

- ・多様性ある中部圏の個性を磨き、リニア開業により、首都圏・近畿圏と補完・連携し、スーパー・メガリージョンとして一体となって我が国の社会経済をけん引する。
- ・高速道路が延伸し、人・モノの動きが大きく変容を遂げた。例えば三重県では、新名神が全線開通し、名古屋だけでなく、近畿圏への近さも有意に機能し、物流関係の企業の立地の引き合いも増え、産業の在り方も変わってきている。

#### 【強靱なネットワークの維持・確保】

- ・中部圏は日本のまんなかに位置し、特に陸上交通ネットワークの要衝である。いかなるときも人、モノ、情報の流れを寸断させないようネットワークの防災対策を進める。
- ・災害等で首都機能が麻痺した際には、我が国全体が機能不全とならないよう中部圏がバックアップ機能を果たす。

## 第4章 将来像の実現に向けて

### 1. 基本的な考え方

- ◇中部圏の目指すべき将来像の実現に向けて、中部圏全体に及ぶ広域的かつ重要な課題については、組織や分野の垣根を越えた強固な連携によって、各種施策を効率的かつ効果的に進めていくことが重要である。
- ◇中部圏が持続的な発展を遂げるために特に重要な課題の解決に向け、先導的な役割を果たすプロジェクトを、重点連携プロジェクトと位置付け、中部圏が一体となって取り組みを加速する。

### 2. 重点連携プロジェクト

#### (1) 防災

##### 【南海トラフ地震への備え】

- ・南海トラフ地震の発生確率が、今後30年で70～80%とされており、内閣府の被害想定では中部圏での被害が最大である。被害をいかに最小限に抑えるかが、非常に重要な視点である。災害が起きることを前提として、いかに早く復興するか、BCPについてあらかじめ考えておくべきである。
- ・南海トラフ地震については、中部圏では国の全機関、マスコミ、インフラ企業など非常に多くの団体が集まって、ここ10年程議論を積み重ねてきているが、現場での実行性はどうか、実行を大事にしないということが課題とされている。



南海トラフ地震に対する緊急防災対策  
シンポジウム (H29.5.18)



中部ブロック南海トラフ地震防災対策推進連絡  
会広域連携防災訓練 (R元.8.30-9.1)

#### 南海トラフ地震対策中部圏戦略会議





- ・この地域の企業がサービス企業の下請けといった構造にならないよう、製造業の拠点としてさらに高付加価値化できるよう、特にスタートアップを注視していく必要がある。
- ・下請けでなくメーカーとして、自分たちが作ったものが最終ユーザーの手に渡り、ユーザーの声が聞こえる B to C 商品として、世界に誇れるもの作ることが大事である。世界にない特徴があって、メディアに受けて、ブランドが確立していく。
- ・ブランディングはものづくりにとって、今後、非常に重要になってくる。特に、中部圏には技術をもった下請け企業が多いが、ブランディングに力を入れている企業は少ない。デザインを含めたブランディングは女性が活躍する場としても価値がある。

#### 【スタートアップ企業・人材を惹き付ける仕組みづくり】

- ・スタートアップを興していきたいというモチベーションがある人や、イノベーションのマインドある人をどのように中部圏に惹き付けるのかが重要である。実際に中部圏にいないとスタートアップがうまくいかないというような仕組みをつくる必要がある。
- ・デジタル化によって地方への分散が進む一方で、付加価値の源泉は東京に集中してしまうというリスクもある。製造業の中核拠点として、中部圏で付加価値を生み出す仕組みを作ることが重要である。
- ・愛知県もステーションAiを作るなど、国だけでなく、愛知県や名古屋市もスタートアップに力を入れ始め、大手メーカーも投資を始めている。新しい技術や仕事を興していくという意味では、ステーションAiなどを起点としてスタートアップを支援する仕組みは非常に可能性がある。



ナゴヤイノベーションズガレージ

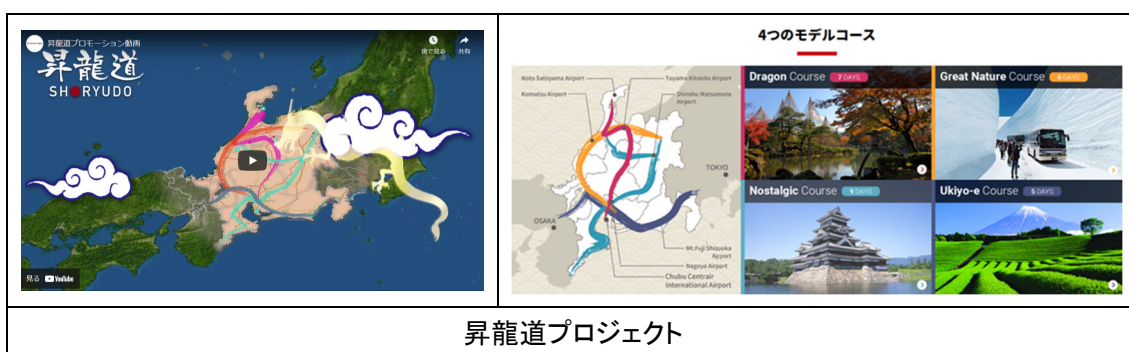
### (3) 観光

#### 【地域資源を活かし、地域の個性を継承】

- ・豊かな自然が残され、固有の歴史・文化を有する中部圏は、魅力的な観光資源が凝縮している。リニアが開業し、セントレアの機能強化が期待される中、観光立国を目指す我が国の中でも果たすべき役割は大きい。
- ・観光は、アフターコロナに向けて非常に重要な戦略になっていくので、ターゲティング、ブランディングを踏まえた方向性を出していくことが必要である。観光が、中部圏の収支を改善する非常に重要な項目になってくる。特に、観光客数だけでなく、観光消費額にも着目していくことが重要である。
- ・ヨーロッパでは自転車専用の高速道路が何千キロというレベルである。先進的な海外の取組みを見ると、まだまだ改善の余地がある。ダム湖を一周できる道路をあらかじめ作るとか、河川整備に合わせ、管理道路をつなぐとか、インフラを整備する際に、観光活用することもあらかじめ考慮して設計した方が良い。
- ・古いものを活かすことも大事だが、古い技術を使って新しいものを作るという潮流が地域の個性、魅力となって、多くの人が住んだり訪れたりすることになる。最近作られている公共施設も、長く景観価値を持つようなものが少ない。インフラ整備の視点では、地域の個性をいかに継承させて発展させるかという視点を持つと、他のエリアと比較して、中部圏が魅力だということになる。

#### 【アート、食文化等を活かした観光需要の拡大】

- ・中部圏の魅力ある地域資源に加え、観光をメインとしたアート、食文化といったものをしっかり活用できれば、観光需要の増大につながる。



### (4) カーボンニュートラル

#### 【すべての産業が一体となったカーボンニュートラルへの転換】

- ・中部圏では、自動車をはじめとする輸送用機械製品の製造が盛んであり、ものづくりを背景として産業部門の電力消費量も多い。気候変動に関する意識は世界中で大きくなっており、電力だけでなく、すべての産業でカーボンニュートラルの取り組みを進めていく必要がある。
- ・カーボンニュートラルによって、電力の価格があがった際に、既存の産業がどうなるのか、エネルギーの使い方を抜本的に変えるような革新的な構造変換をするか、新たなエネルギー源を発見するか、中部圏がこれからどうしていくか、大きな課題である。
- ・電力については、非効率火力（石炭火力）の低排出と、アンモニアの利用、水素の利用、再生エネルギーの活用である。石炭火力については、関係する会社が非常に多いので影響が大きい。
- ・中部圏としては、現時点では、火力発電所をしっかりと脱炭素化していくという取り組みや、蓄電池を活用していくことが、合理的である。すでに石炭火力でアンモニアやバイオマスを焚くという実証も行われ、蓄電池関係では、使用済のバッテリーの有効活用も検討されている。風力、太陽光以外のところで必要になってくる電源をどう補完していくかが、非常に重要になってくる。
- ・自動車産業では、自動車を製造する段階、走行する段階、それぞれで排出するCO<sub>2</sub>の削減に向けて、物流、排気、リサイクルの各段階を含めて、自動車のライフサイクル全体でのCO<sub>2</sub>排出量ゼロを目指すライフサイクルCO<sub>2</sub>ゼロチャレンジに取り組みが進められている。
- ・物流においては、全国的にもドライバー不足が深刻化しており、CASEの社会実装、普及に向けたスピードを加速し、輸送業がかかえる課題、ドライバーの人手不足、長時間労働の解決や、カーボンニュートラル社会の実現にむけた取り組みが進められている。

## (5) ネットワーク

### 【先進的モビリティの活用】

- ・都市部での渋滞、高齢者の事故の増加、農村部での移動困難な高齢者の増加が顕在化している中、都市部ならびに都市以外でも、魅力的に住んでいけるよう様々な交通手段を活用したシームレスな交通ネットワークを提供する。
- ・バス、タクシー、物流サービスに自動運転を導入するとともに、地域や企業が連携し、先進的なモビリティを導入する等、地域の課題解決し、産業の活性化、新たな価値を創出していく。

**【リニアを活かす、「陸・海・空」高速交通ネットワークの形成】**

- ・リニアの開業により、名古屋を中心とした120分圏内に、現在の2倍の人口が往来すると言われている。東京一極集中でなく、地域が相互に補完・連携する多極分散型となるよう、どういう形で関係人口を増やしていくかが重要である。

**【人、モノ、情報をつなぐ高度な都市機能の強化・維持】**

- ・サプライチェーンが世界中に広がっている中で、中部圏は世界のものづくりの大きな拠点になっている。世界の中に広がるサプライチェーンが正常に機能することが重要であり、首都圏、近畿圏だけではなく、中部圏も世界の拠点として機能を果たしていくために、名古屋港ならびに中部国際空港（セントレア）等のネットワークの機能を強化・維持していくことが重要である。



リニア中央新幹線、セントレア、東海環状自動車道等の活用



### 第3章 中部圏の目指すべき将来像

#### 1. 基本的な考え方

- ◇豊かな自然、固有の歴史・文化、ものづくりをはじめとした様々な産業を有する中部圏の各地域が多様な個性を磨き、世界から人材が集まり、すべての人が活躍できるQOLの高い「住んでよし、訪れてよし」の魅力的な地域をつくる。
- ◇交通・情報通信ネットワークを充実・活用し、中部圏内の多様な地域が補完・連携し、中部圏域が一体となって成長し、首都圏・近畿圏とともに我が国の社会・経済をけん引し、世界の拠点としての機能を果たす。

#### 2. 目指すべき将来像

##### (1) QOLの向上（住んでよし、訪れてよし）

- 【人を惹き付け、選ばれる地域】
- 【生活を楽しくする自然、歴史・文化、芸術等の魅力を感じることができる地域】
- 【自らが、人を中心とした地域をデザインできる地域】
- 【子供が生まれ、女性、若者、高齢者、外国人等が活躍・共生できる地域】
- 【中山間地における自立分散・循環社会の実現】
- 【激甚化する自然災害に対応する防災の推進】
- 【クリエイティブな仕事、イノベーションがうまれる地域】

##### (2) 地域間の補完・連携

- 【ネットワークの充実・活用で、一体となって魅力向上、隅々までの豊かさを供給】
- 【時間と場所にとらわれないデジタル化を前提とした交流・対流】
- 【我が国の社会経済をけん引するスーパー・メガリージョン】
- 【強靱なネットワークの維持・確保】

#### 1. 基本的な考え方

- ◇中部圏の目指すべき将来像の実現に向けて、中部圏全体に及ぶ広域のかつ重要な課題については、組織や分野の垣根を越えた強固な連携によって、各種施策を効率的かつ効果的に進めていくことが重要である。
- ◇中部圏が持続的な発展を遂げるために特に重要な課題の解決に向け、先導的な役割を果たす方策プロジェクトを、重点連携プロジェクトと位置付け、中部圏が一体となって取り組みを加速する。

#### 2. 重点連携プロジェクト

##### (1) 防災

- 【南海トラフ地震への備え】
- 【地域づくりと連携した流域治水における災害対応】
- 《 南海トラフ地震対策中部圏戦略会議、流域治水プロジェクト 》

##### (2) スタートアップ

- 【世界から人を惹き付けるスタートアップ企業の集積・創出】
- 【スタートアップ企業・人材を惹き付ける仕組みづくり】
- 《 ナゴヤ イノベーターズ ガレージ 》

##### (3) 観光

- 【地域資源を活かし、地域の個性を継承】
- 【アート、食文化等を活かした観光需要の拡大】
- 《 昇龍道プロジェクト 》

##### (4) カーボンニュートラル

- 【すべての産業が一体となったカーボンニュートラルへの転換】
- 《 名古屋港カーボンニュートラルポート形成 》

##### (5) ネットワーク

- 【先進的モビリティの活用】
- 【リニアを活かす、「陸・海・空」高速交通ネットワークの形成】
- 【人、モノ、情報をつなぐ高度な都市機能の強化・維持】
- 《 リニア、セントレア、東海環状自動車道等の活用 》

※ 《 》は、具体的な取り組み事例イメージ

### 第3章 中部圏の目指すべき将来像

#### 1. 基本的な考え方

- ◇豊かな自然、固有の歴史・文化、ものづくりをはじめとした様々な産業を有する中部圏の各地域が多様な個性を磨き、世界から人材が集まり、すべての人が活躍できるQOLの高い「住んでよし、訪れてよし」の魅力的な地域をつくる。
- ◇交通・情報通信ネットワークを充実・活用し、中部圏内の多様な地域が補完・連携し、中部圏域が一体となって成長し、首都圏・近畿圏とともに我が国の社会・経済をけん引し、世界の拠点としての機能を果たす。

#### 2. 目指すべき将来像

##### (1) QOLの向上（住んでよし、訪れてよし）

- 【人を惹き付け、選ばれる地域】
- 【生活を楽しむ自然、歴史・文化、芸術等の魅力を感じることができる地域】
- 【自らが、人を中心とした地域をデザインできる地域】
- 【子供が生まれ、女性、若者、高齢者、外国人等が活躍・共生できる地域】
- 【中山間地における自立分散・循環社会の実現】
- 【激甚化する自然災害に対応する防災の推進】
- 【クリエイティブな仕事、イノベーションがうまれる地域】
- ~~【地域資源を活用した、新たなライフスタイルのプラットフォーム創造】~~

##### (2) ネットワーク（地域間の補完・連携）

- 【コンパクト・プラス・ネットワークの充実・活用で、一体となって魅力向上、隅々までの豊かさを供給】
- ~~【コンパクト化による、賑わい・ウォークアブルなまちづくり】~~
- ~~【ネットワーク化による、高度な都市機能の強化・維持】~~
- 【時間と場所にとらわれないが関係ないデジタル化を前提とした交流・対流】
- 【我が国の社会経済をけん引するスーパー・メガリージョン】
- ~~【リニア開業で、東京一極集中から多極分散型へ】~~
- 【強靱なネットワークの維持・確保】

### 第4章 将来像の実現に向けて

#### 1. 基本的な考え方

- ◇中部圏の地域づくりのあり方や目指すべき将来像の実現に向けてを共通の目標とし、中部圏全体に及ぶ広域的かつ重要な課題については、組織や分野の垣根を越えた強固な連携によって、各種施策を効率的かつ効果的に進めていくことが重要必要である。
- ◇ ~~このため~~中部圏が持続的な発展を遂げるために特に重要な課題や問題の解決に向け、先導的な役割を果たす方策プロジェクトを、新たに重点連携プロジェクトと位置付け、中部圏が一体となって取り組みを加速する。

#### 2. 具体的な重点連携プロジェクト

##### (1) 防災

- 【南海トラフ地震への備え】
- 【地域づくりと連携した流域治水における災害対応】  
《 南海トラフ地震対策中部圏戦略会議、流域治水プロジェクト 》

##### (2) スタートアップ

- 【世界から人を惹き付けるスタートアップ企業の集積・創出】
- 【スタートアップ企業・人材を惹き付ける仕組みづくり】  
《 ナゴヤ イノベーターズ ガレージ 》

##### (3) 観光

- 【地域資源を活かし、地域の個性を継承自らデザインする魅力的な地域づくり】
- 【アート、食文化、インフラ形成等を活かした観光需要の拡大】  
《 昇龍道プロジェクト 》

##### (4) カーボンニュートラル

- 【すべての産業が一体となったカーボンニュートラルへの転換】  
《 名古屋港カーボンニュートラルポート形成 》

##### (5) ネットワーク

- 【先進的モビリティの活用】
- 【リニアを活かす、「陸・海・空」高速交通ネットワークの形成】
- 【人、モノ、情報をつなぐ高度な都市機能の強化・維持】  
《 リニア、セントレア、東海環状自動車道等の活用 》

※ 《 》は、具体的な取り組み事例イメージ

令和3年6月 2日 第1回 検討会設置、意見聴取(1回目)

// 7月 5日 第2回 意見聴取(1回目)の対応、意見聴取(2回目)

// 8月19日 第3回 意見聴取(2回目)の対応、中間とりまとめ素案 提示

◆ 令和3年秋頃 中間とりまとめ 公表

※社会経済情勢を見極め、複数回開催予定

◆ 令和3年冬頃 最終とりまとめ 公表